

特ニ之ヲ訊問セサルモ不法ニ非ス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 山本孝太郎

右官吏侮辱被告事件ニ付明治三十三年七月九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意ノ第一點ハ要スルニ明治三十三年四月十五日發行ニ係ル新大阪ト稱スル新聞紙上ノ記事ニ付テハ被告ハ毫モ關與シタルコトナシ何トナレハ被告ハ該新聞紙ノ印刷ヲ受負ヒタルヲ以テ假裝的發行兼印刷人タリシモ其實名義ノミニテ純然タル印刷業ニ過キスシテ新聞社ノ利害ニ關係ヲ有セサレハナリト云ヒ同第二點ハ要スルニ明治三十三年二十七日頃從來ノ月刊發行ヲ廢シ日刊發行ト爲スニ際シ該新聞ノ發行兼印刷人ヲ辭退シ其當時名義變更届書ニ捺印シ新聞社ニ交付シタルモノナレハ四月十五日ノ發行ニ係ル印刷ニハ被告カ從事シタルニアラサレハ被告ニ於テ責任ヲ負フヘキモノニアラスト云フニアレトモ○右ハ孰モ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

上告趣意擴張書ノ第一點ハ要スルニ原判決ハ被告カ該侮辱ニ係ル記事ヲ印刷發行スルニ付齋藤貞雄下

謀議シタル事實即チ侮辱スルニ付共謀シタル事實ヲ認メス換言セハ齋藤貞雄ニ對スル官吏侮辱ノ事實ハ認定シアルモ被告ニ對スル官吏侮辱ノ事實ハ毫モ之ヲ認定セスシテ侮辱ノ罪アリトシタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ「第一被告貞雄ハ云々新大阪新聞紙ノ編輯人被告峰太郎ハ同新聞紙ノ發行兼印刷人トシテ各其業務ニ從事中明治三十三年四月十五日發行ノ新聞紙上ニ云々全然事實捏造ニ係ル記事ヲ掲ケ判事辻保造ノ職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ同判事ヲ侮辱シタルモノナリ」トアルニ依リ其共謀タル事實判文上自ラ明カナルニ依リ論旨ハ謂ハレナシ

同第二點ハ要スルニ原判決ハ事實認定中ニハ共謀ノ事實ヲ認メサルニ拘ハラズ證據理由ノ末段ニ於テ被告兩名ハ共謀シテ前項ノ犯行アリト認ムルニ十分ナリトスト記載セリ然レトモ理由ノ明示トハ事實ヲ認定シテ而シテ其認定シタル所以ノ理由ヲ明示スルモノナリ苟モ事實ヲ認定セスシテ其理由ヲ明示セントスルカ如キハ其明示スヘキ理由ノ出所ナキニ理由ヲ付セント企圖スルモノニシテ不道理ト云フヘシ故ニ原判決ハ理由ノ齟齬若クハ不備ノ不法ヲ免カレスト云フニ在レトモ○前第一點ニ對スル說明ノ如クナルニ依リ本論旨モ亦其理由ナシ

同第三點ノ要旨ハ刑法第四百一十一條官吏侮辱ノ罪ヲ認ムルニハ其文書記事カ筆者若クハ共犯者ノ故意ニ出テタル事實ヲ認メサルヘカラス然ルニ原判決ハ被告カ故意即チ侮辱ノ意思ヲ以テ特ニ之ヲ掲載シタルノ事實ヲ認定セスシテ侮辱罪ニ問擬シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○侮辱ノ記事ヲ新聞紙ニ



掲載シタル事實アル以上ハ其侮辱ノ意思ニ出テタルモノト認ムヘキハ勿論ナルニ依リ本論旨ハ其理由ナシ

同第四點ノ要旨ハ原判決ニ於テ新大阪ノ發行所ハ大阪府北區會根崎番外八十四番屋敷ナルカ如ク認メタレトモ其發行所ハ大阪府西成郡鷺洲村大字大仁番外六十一番屋敷ナルコトハ其筋ニ届出テアリ而シテ會根崎番外八十四番屋敷ハ大阪支局ナルコト該紙面ニ明記アリ又原審ニテハ一言モ其發行所ニ關スル尋問ヲ受ケタルコトナシ故ニ原判決ハ第一ニ犯罪ノ場所ヲ誤リ第二事實ヲ審尋セスシテ猥リニ憶斷ヲ下シタルノ不法アリト云フニアレトモ○前段ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ヲ批難スルコト外ナラス後段ハ新聞紙發行所ノ如キハ新聞紙其物ニ掲記シアリテ顯著ナリ事實ナルニ依リ特ニ其發行所ニ付尋問ヲ爲サハルモ不法ニアラス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十一月二十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○毆打致死ノ件

明治三十三年十一月二十九日宣告

○判決要旨

毆打致死罪ハ毆打創傷ノ當時直チニ成立ス然レトモ必スシモ之ニ因テ直チニ人ヲ死ニ致スコトヲ要スルニ非ス從テ創傷ト死亡トノ間若干日ヲ經過スルコトアルモ罪ノ成否ニ影響ナシ

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告 佐藤龍次郎 辯護人 〔高野金重〕

右者毆打致死被告事件ノ控訴ニ付明治三十三年十月二十三日宮城控訴院ニ於テ言渡タル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意ハ被告ハ明治三十二年十月二十六日田村郡飯豊村大字浮金字馬場宅地前ノ畑ニ於テ實母イヅチ毆打シ之カ原因トナリテイヅチ遂ニ死ニ至リタルモノト認メラレ宮城控訴院ハ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタル處被告ハ曾テ實母イヅチ毆打シタルコトナク從テ之レカ原因トナリテ死ニ至リタル如キ事實ナシ然ルニ原院カ之ニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ニ法律ヲ適用シタル判決ト思考スト云フニ在レトモ

○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレテ以テ上告適法ノ理由ナシ

毆打創傷ト死亡トノ時間



辯護人ノ上告趣意擴張書第一點ハ本件ハ刑法第三百六十三條ヲ適用スル犯罪ナルヲ以テ被害者ト加害者トノ身分上ノ關係ハ實親子ナルヤ否ヤヲ確定スルノ必要アルヤ勿論トス而シテ原判決理由後段ニハ「親子ノ關係前掲ノ如クニシテ云々被告カ當公廷ニ於ケル自認アリ云々」ト判示シ被告ノ自認ニ依リ親子ノ關係ヲ認メタルモ身分關係ニ付テハ戶籍吏ノ作製スル戶籍簿ハ唯一ノ證據ナルヲ以テ假令被告ノ自認アル場合ニ於テモ戶籍簿ニ依リテ之ヲ立證セサルヘカラス然ルニ原判決カ單ニ被告ノ自認ノミニ基キ本件犯罪構成ノ要素タル身分關係ヲ認メ刑ヲ科シタルハ刑事訴訟法第二百三十九條及戶籍法ニ違背スル不法アルト共ニ理由不備ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○證據ヲ撰擇取捨シテ事實ヲ認定スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ被告ノ自認ニ據リ被害者イシト親子ノ關係アルコトヲ認定シタルモ不法トセス

第二點ハ原判決ニ「被告ハ酩酊ノ上怒ヲ發スル惡癖アリ」ト認定シ本件ノ行爲ニ對シテハ「被告ハ酒氣ヲ帶ヒテ他ヨリ歸リ來リ云々卒然怒ヲ發シ云々」ト認定セリ左レハ本件ハ事實ニ於テ被告ハ酒狂ニ乘シ智覺精神ヲ喪失シタル間ニ於テ犯罪行爲ヲ爲シタルコト明ナリ然ルニ原院カ刑法第七十八條ヲ適用シ不論罪ヲ以テ處分セサルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ハ被告カ犯罪ノ當時酒氣ヲ帶ヒタル事實ヲ説明シタルニ止マリ知覺精神ヲ喪失シタルコトヲ認メサルヲ以テ刑法第七十八條ヲ適用セザリシハ當然ナリ故ニ本論旨ハ理由ナシ

第三點ハ毆打致死罪ハ繼續犯ニ非ス從テ其犯罪ハ行爲發生ノ瞬間ニ於テ成立スヘキモノトス而シテ本件被告ノ犯罪ハ明治三十二年十月二十六日ニアリテ秤棒ヲ以テ被害者ノ左臀部ヲ毆打シタルニ止マリ其當時被害者ノ死亡ハ犯罪ニ直接シテ其瞬間ニ到來シタルニ非ス數十日ヲ閱シテ死ニ至リタルモノナレハ毆打創傷ヲ以テ論スルハ格別毆打致死ノ法則ヲ適用スヘカラサルヤ言ヲ俟タス左スレハ原判決ハ此點ニ於テ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○刑法第二百九十九條ニ依レハ人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ストアリテ本條ノ罪ハ人ヲ毆打創傷シタル行爲ノ時直ニ成立スルコトハ所論ノ如シト雖モ必スシモ之ニ因テ直チニ人ヲ死ニ致スコトヲ要スルニアラス縱令若干月日ノ後ト雖モ苟モ被害者ニシテ其毆打創傷ニ原因シテ死ニ至リタルトキハ本條ニ依リ其加害者ヲ處罪スヘキハ勿論ナルヲ以テ本論旨亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十三年十一月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス



○持兇器竊盜未遂等ノ件

明治三十三年九月二十九日第一二九一號  
明治三十三年十一月三十日宣告

○判決要旨

刑法第二百二條ニ所謂餘罪ト云或ル犯罪ノ判決以前ニ於テ犯シタル罪ノ謂ニシテ其當時未ダ發覺セサルモノハ勿論既ニ發覺スルモ同時ニ判決ヲ經サリシモノハ皆之ヲ包含ス

(參照) 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セ  
ス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ  
該リ已ニ完納シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス(刑法第  
百二條  
第二項)

第一審 松山地方裁判所宇和島支部

第二審 廣島控訴院

被告人 松本万治郎

右持兇器竊盜未遂及ヒ官吏抗拒被告事件ニ付明治三十三年十月三日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意ノ要旨ハ第一被告ハ箆筒内ノ金圓ヲ竊取スルノ目的ナルヲ以テ其箆筒ノ開放ニ着手スルニ非  
サレハ竊盜未遂罪ヲ構成スルモノニ非ス然ルニ原院ハ宅内ニ侵入シタルノミノ事實ヲ認メナカラ家宅

侵入罪コト問ハヌシテ持兇器竊盜未遂罪ニ問ヒタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○竊盜ヲ爲ス目  
的ヲ以テ人ノ家宅ニ侵入スル以上ハ竊盜未遂罪ヲ構成スルコト勿論ナレハ本論旨ハ理由ナシ』第二被  
告ハ巡查ニ抗拒シ創傷ヲ負ハシメタルコトナキニ拘ハラス被告ノ辯解ヲ排斥シ巡查ノ證言ヲ片信シテ  
以テ被告カ創傷センメタルカ如ク認定セラレタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原院ノ職權ニ屬スル  
事實ノ認定探證ノ當否ヲ論難スルモノナレハ上告ノ理由トナラス』第三巡查ハ被告ト揉合ヒタル際自  
己ノ劍ニテ負傷シタルモノニシテ被告ハ創傷センメタルコトナシ被告ノ警察調書ハ逮捕巡查ト巡查部  
長トカ申合ハセテ被告カ申立サル虛構ノ事實ヲ記載シタルモノナリト云フニ在レトモ○其前段ハ事實  
認定ノ批難ニシテ其後段ハ原院カ採用セサル調書ノ攻撃ナレハ共ニ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス』第  
四廣島控訴院ノ抗告決定書ニ依レハ被告カ忍入リタルハ表口ナルカ如ク記載シアルモ表口ニアラスシ  
テ裏口ナルコトハ一件記録ニ徵シ明瞭ナリ又本件ヲ持兇器竊盜未遂ナリトセハ無罪ナルニ之ヲ宇和島  
支部ノ公判ニ移シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○法律上ノ減刑ニ依リ輕罪ノ刑ニ處スヘキ犯罪ハ  
總テ輕罪コシテ重罪コト非ス故ニ廣島控訴院カ本件ノ持兇器竊盜未遂罪ヲ以テ輕罪トナシ宇和島支部ノ  
公判ニ付シタルハ相當ナルノミナラス其抗告決定ハ已ニ確定シタルモノナレハ之レヲ攻撃シテ以テ上  
告ノ理由ト爲スヲ得ス』第五本件ハ重罪ナルニ原院公判ノ際辯護人ヲ附セサリシハ不法ナリト云フニ  
在レトモ○本件ハ輕罪ニシテ重罪ニ非サルコトハ第五點ニ於テ説明スル如クナルヲ以テ原院カ辯護人



付セシテ審判ヲ爲シタルハ不法ニ非ス』第六原判決ニハ本件監視規則違反罪ノ餘罪ナリトアルモ本件ニ付被告カ拘留ヲ受ケタルハ明治三十三年五月十六日ニシテ監視規則違反罪ハ其後ニ發覺シ同年五月三十日重禁錮二月ノ言渡ヲ受ケタルモノナレハ本件ハ監視規則違反ニ對シ餘罪ト云フヲ得ス又右監視規則違反ノ言渡ハ明治三十年五月三十日ニ在リタルモノナルニ原判決ニ於テ之レヲ明治三十三年六月四日トセラレタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○刑法第百二條ノ餘罪トハ或ル犯罪ノ判決以前ニ犯シタル罪ニシテ其當時未タ發覺セサルモノ、ミナラス已ニ發覺スルモ同時ニ判決ヲ經サリシモノヲ謂フ故ニ原院カ本件ヲ以テ已ニ確定判決ヲ經タル監視規則違反罪ノ餘罪トナシタルハ相當ニシテ前段論旨ハ其理由ナシ又宇和島支部檢事局書記ノ認印シタル前科表ヲ見ルニ監視規則違反ノ判決ハ明治三十三年六月四日トアルヲ以テ後段論旨ハ謂ハレナシ』同辯明書ノ第一點及ヒ第九點ハ上告趣意書ノ第一ト其第二點ハ同第二及第三ト其第四點ハ同第四ト其第七點及ヒ第八點ハ同第六ト全々同一趣旨ナルヲ以テ別ニ説明セス』其第三點ハ巡查ノ疵ヲ以テ豫審判事ハ毆疵ト爲シ廣島控訴院ハ創傷トナシ宇和島支部ハ及傷トナシ其何レカ事實ナルヤ知ルニ由ナシ之レ畢竟巡查ノ針小棒大ナル證言ニ依リタルカ故ナリ又巡查カ一日ノ疾病休業ヲ爲サルニ依ルモ其負傷ハ輕微ニシテ被告カ切付ケタルモノニ非ラサルコト明瞭ナリト云フニ在レトモ○毆疵ト云ヒ及傷ト云フモ法律上其意義ニ於テ異ナルコトナク其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ナルヲ以テ適法上告ノ理由トナラス』其第五點

ハ廣島控訴院ノ抗告決定書ニハ被告カ監視規則違反罪ニ依リ重禁錮二月ニ處セラレタル裁判所ヲ以テ廣島區裁判所ト記載シアルモ被告カ右言渡ヲ受ケタルハ宇和島ニシテ廣島區裁判所ニ非スト云フニ在レトモ○其抗告決定ハ既ニ確定シタルモノナレハ之レヲ論難スルモ適法上告ノ理由トナラス』其第六點ハ宇和島支部ノ豫審判事ハ被告カ抗告ヲ申立テタル翌日被告ヲ豫審廷ニ召喚シ抗告ヲ爲スノ不利益ナルコトヲ説諭セラレタルモ被告ハ其説諭ニ承服セス抗告ノ理由アルコトヲ主張シタル處豫審判事ハ大ニ立腹ノ體ニテ退席シタリ之等ハ被告カ冤罪ニ陥リタル一原因ナラント思考スト云フニ在レトモ○縱シテ論旨ノ如キ事實アリタリトスルモ事件ニ何等ノ影響ヲ及ホス可キ謂ハレナケレハ本論旨ハ其理由ナシ』其第十點ハ被告カ携帯シタル庖丁ボオト雖センバノ子西洋鍵ノ如キハ人ヲ殺害スルニ足ラサルヲ以テ兇器ト稱スヘキモノニ非サルニ原院之レヲ以テ兇器ト認定セラレタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ銳利ナル庖丁トアリ而シテ銳利ナル庖丁ハ人ヲ殺害スルニ足ル器具ナルコト勿論ナルヲ以テ本論旨モ亦其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十三年十一月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス



○強盜ノ件

明治三十三年九月第一三三二號  
明治三十三年十一月三十日宣告

○判決要旨

刑ノ言渡ニ非サレハ法條ヲ適用セサルモ不法トセス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 竹内亥太郎 辯護人 濱地八郎  
外一名

右兩名ニ對スル強盜被告事件ニ付明治三十三年十月十二日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ  
被告健男上告趣意ノ要旨ハ原院ノ判決ハ法律ニ違背シタル裁判ナリト云フニ在リテ其違法ノ點ヲ摘示セサルヲ以テ説明セス

被告亥太郎上告趣意ノ要旨ハ被告ハ明治三十三年三月十一日午前一時頃被害者古谷藤吉方ニ忍入り金十五圓ヲ領收セシコトハ相違ナキモ脅迫暴行ヲ加ヘタルコトナク護身ノ爲メ短刃ヲ所持セシモ目的ヲ達セン爲メ之ヲ携帯セシニアラサレハ刑法第三百七十九條ニ該當スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○原判決ヲ見ルニ其認メタル事實ハ健男ト共謀ニ出テタルモノト認メアレハ暴行アリシトノ事實ハ勿論短刃ヲ携帯セシ意思ノ如キモ強盜ヲ爲ス目的ニ出テタルモノト認メタルコト明カナレハ本論旨ハ

原判決ノ事實認定ヲ批難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナラス  
被告健男上告趣意擴張書ハ要スルニ各關係人ノ供述ヲ採テ被告ニ犯罪ナキコトヲ辯疏シ且ツ被告亥太郎ト談合シタルハ果シテ強盜ヲ爲スノ目的ナリシカ將竊盜ヲナスノ意思ナリシカノ點ニ付キ取調ヘテ爲サスシテ之ヲ強盜ナリトセシハ不法ナリ又右亥太郎カ暴行脅迫ノ所爲アリトスルモ右ハ宅内ヘ忍入りタル後ニ於ケル彼レ一人ノ意思ニ出タルモノナレハ原判決カ刑法第三百七十八條等ニ依リ處分シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ見ルニ本件ノ事實ヲ取調ヘアリテ結局判決ヲ爲シタルモノナレハ取調ヲ爲サハル違法ナリ又本論旨末段ノ趣旨ハ全ク事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラズ

上告趣意辯明書ノ第一項ハ趣旨明瞭ナラサルモ原判決證據列記ノ部ニ於テ三月十一日午前一時頃ノ犯罪ヲ證明スルニ當リ何故ニ三月十七日ノ午後八時頃ノ會合云々ノ事ヲ援用シタルカ又何故ニ三月十七日午後八時頃トノ冠詞ヲ除却シタルカノ説明ヲ欠クノ不法アリト云フニ在リ其第二項ハ證人古谷彌平ノ陳述ト檢證調書トヲ採ラスシテ古谷藤吉ノ供述ヲ採用シタルハ不法ナリト云ヒ其第三項ハ參考人乾ミツチ被告ノ妻ナリト明記シテ其理由ヲ附セス且ツ同人ノ供述ハ被告人ニ利益ナルモノナルニ有罪ノ證據トセシハ不法ナリト云ヒ其第四項ハ被告所有ノ仕込杖ナルコトヲ何ノ證據ニ依リ認メシカチ明記セス而シテ之ヲ刑法第四十三條第二號第四十四條後段ニ依リ處分セシハ不當ナリ云々ト云フニ在リ



上告趣意第二辯明書ノ前段ハ被告亥太郎ノ第一回豫審訊問調書ハ信ヲ措クニ足ラス其後段ハ被告ニ犯罪所爲ナキコトヲ縷々辯疏スルニ外ナラス上告趣意第三辯明書ノ前段ハ證據トセシ短刀ハ其出所不明ナルニ之ヲ證據トセシハ不法ナリト云フニ在リテ○總テ原院ノ證據取捨ニ對スル非難ニ外ナラサレハ上告ノ理由トナラス其後段ハ單ニ第一審判決ニ對スル不法ヲ訴フルニ止マリ上告ノ趣旨ト爲スヲ得ス

被告健男上告趣意擴張書ノ第一點乃至第三點ハ共ニ前趣旨ヲ反覆陳述スルニ外ナラス其第四點ハ要スルニ原公判ハ公開セシヤ否ヤ明瞭ナラサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ見ルニ總テ公開セシ旨記載アレハ本論旨ハ謂ハレナシ其第五點ノ前段ハ健男ノ調書證人藤吉參考人ミツ等ノ豫審調書ハ何レモ公署印ノ押捺ナシト云フニ在レトモ○右各調書ニハ官印押捺アルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ其後段ハ趣旨明瞭ナラサレハ説明セス

辯護人濱地八郎上告趣旨擴張ノ趣旨ハ原院ノ判決ニヨルニ第一審判決ニハ刑法第四十七條及刑事訴訟法第二百二條ノ適用ナキモ刑ノ言渡ニアラサルヲ以テ判決ノ瑕疵ヲ爲サルモノトシ控訴ヲ棄却セリ然レトモ判決ハ不可分ノモノナルヲ以テ苟モ適用ス可キ法則ヲ適用セサル以上ハ刑事訴訟法第二百六十一條ニヨリ原裁判ヲ取消シ更ニ判決スヘキモノナルニモカ、ハラス控訴ヲ棄却シタルハ失當ナリト信スト云フニ在レトモ○刑ノ言渡ニアラサレハ法條ノ適用ヲ爲サルモ不法ニアラス從テ原院ハ第一

審判決ヲ取消スヘキ理由ナキヲ以テ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十一月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス



○大審院刑事部裁判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長

部長 判事 原田種成

部員

判事 小松弘隆

判事 永井岩之丞

判事 伊藤悌治

判事 井原師義

判事 末弘嚴石

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

本部ノ所管

刑事部氏名表

名古屋控訴院

大阪控訴院

長崎控訴院

廣島控訴院

第二刑事部

裁判長

部長 判事 長谷川 喬

部員

判事 岩田武儀

判事 木下哲三郎

判事 津村 董

判事 鶴 丈一郎

判事 鶴見守義

本部ノ開廷

月曜日



刑事訴訟法名表

木曜日

本部ノ所管

東京控訴院

函館控訴院

宮城控訴院



總目録

刑法

- 山林ニ露積シタル薪柴ニ放火シ延テ附近ノ柴山ヲ燒燬シタル所爲ノ事……………一
- 創傷ハ一个ナリト雖モ二人以上共毆シテ共犯中何人ノ負傷セシメタルヤ……………二
- ヲ知ル能ハサルトキハ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル能ハサルモノナリトノ事……………五
- 金圓ト約束手形トヲ騙取シタル所爲ノ事……………五
- 稅務署長ハ收入官吏ナリトノ事……………六〇
- 賭場開張罪ハ其行爲ノ一回タルト常行タルトニ因リ差異ヲ生スヘキモノニ非サル事……………六三
- 詐欺取財罪ヲ犯シタル後其犯跡ヲ掩蔽スル爲メ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ニ非サル事……………六六

民法

- 詐欺取財ノ手段タル賣買ハ民法上效力ヲ生セストノ事……………七一



刑事訴訟法

他事件ノ鑑定書ヲ證據ニ供スル場合ニ於ケル裁判ノ事……………四

普通裁判所ト特別裁判所トノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場合ニ於ケル管轄違ノ言渡ノ事……………八

重罪事件下調訊問調書ニハ判事ノ署名捺印ヲ必要トセサル事……………一〇

證人タル資格ナキ者ヲ證人トシテ宣誓セシムルモ其供述ヲ罪證ニ供スルヲ得ストノ事……………一五

證人無資格者ノ旅費日常ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノナリトノ事……………一五

一旦起訴アリタル事件ニ對シ更ニ起訴シタルトキハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリトノ事……………三二

共犯中軍事裁判所ニ於テ被告人トナリタル者ハ證人トナルヲ得ストノ事……………四六

二罪併科セシムル事件ニ付キ控訴セサル所爲ヲ審理シタル判決ノ事……………四八

共犯事件ノ訴訟費用ノ負擔ノ事……………五一

事實理由ヲ明示セサル判決ノ事……………五三

鑑定書ヲ補充スル爲メ鑑定人ノ供述ヲ聽キタル措置ノ事……………七〇

刑事訴訟法第二百七十六條ニ所謂期間ニハ上告趣意書提出ノ期間ヲ包含スル事……………七〇

官吏公吏ノ作ルヘキ文書ニハ代署ヲ許サ、ル事……………七四

共犯者ノ一名ト身分上ノ關係ヲ問查セサル通事ノ訊問手續ハ不法ナル事……………七六

原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サ、ル趣旨ノ事……………八九

町村制

町村助役ハ町村役場印ヲ監守スルノ責アリトノ事……………三三



事件目錄

事 件	關係事項	判決日	番 號	訴訟關係人	丁數
放火ノ件	放火ノ結果	十二月三日	三十三 九四三號	被告 平塚忠作	一
私書變造行使ノ件	他事件ノ鑑定書	十二月四日	三十三 九四三號	被告 藤原菊太郎	四
詐欺取財等ノ件	管轄邊ノ言渡	十二月六日	三十三 九四三號	被告 宮澤齊二郎	八
竊盜及官印盜用等ノ件	重罪事件下調訊問調書ノ署名	十二月十日	三十三 九四三號	被告 木村勇四郎	二
約束手形偽造行使詐欺取財ノ件	證人無資格者ノ旅費日當	十二月十一日	三十三 九四三號	被告 黒木 光	五
公文書偽造行使ノ件	助役ノ役場印ノ監守	十二月十一日	三十三 九四三號	被告 赤祖父茂郷	三
私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件	二重起訴ノ裁判	十二月十三日	三十三 九四三號	被告 江 花 正 孝	三
建造物毀棄及器物毀棄ノ件	共犯軍人ノ證人資格	十二月十三日	三十三 九四三號	被告 植田重太郎	三
竊盜ノ件	併科事件ノ控訴	十二月十三日	三十三 九四三號	被告 今 清之進	四
謀殺ノ件	共犯事件ノ訴訟費用負擔	十二月十八日	三十三 九四三號	被告 石岡初五郎	三
後備兵召集不應ノ件	事實理由ノ不備	十二月二十日	三十三 九四三號	被告 柴 佐 吾	三
毆打創傷ノ件	共毆ノ創傷	十二月二十日	三十三 九四三號	被告 三 俣 傳 吾	三

刑事事件目錄



詐欺取財ノ件  
 森林竊盜並附帶私訴ノ件  
 移民保護法違反ノ件  
 詐欺取財並附帶私訴ノ件  
 贓物寄藏ノ件  
 放火未遂等ノ件  
 監守盜ノ件  
 富籤興行牙保ノ件  
 官印盜用等ノ件  
 官文書偽造行使等ノ件

金匱ト約束手形ノ騙取	十二月廿一日	三十三 れ七三九號	被告 飯田善四郎 外三名
鑑定書ノ補充	十二月廿一日	三十三 れ三六號	被告 飯田善四郎 外三名
上告趣意書提出ノ期間	十二月廿一日	三十三 れ三六號	被告 飯田善四郎 外三名
詐欺取財ノ手段タル賣買	十二月廿四日	三十三 れ九三號	被告 飯田善四郎 外三名
官吏公吏ノ作成スヘキ文書ノ署名	十二月廿四日	三十三 れ〇五號	被告 飯田善四郎 外三名
通事ノ訊問手續	十二月廿四日	三十三 れ三三號	被告 飯田善四郎 外三名
稅務署長ノ職權	十二月廿四日	三十三 れ二九號	被告 飯田善四郎 外三名
賭場開張罪ノ構成	十二月廿四日	三十三 れ二九號	被告 飯田善四郎 外三名
詐欺取財後ノ文書偽造	十二月廿五日	三十三 れ二五號	被告 飯田善四郎 外三名
不利益變更ノ意義	十二月廿七日	三十三 れ二五號	被告 飯田善四郎 外三名

いろは索引

此索引ハ專ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從ヒ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非サレハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用ヒス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラズ人ノ通常言フ所ノ音聲ニ據ル例之ハナラハナシ

[カ]	一人全部ノ費用負擔 (共犯事件ノ訴訟費用負擔。參看) 移送事件ノ不利益變更 (不利益變更ノ意義。參看)	丁數 五 九 〇 二 七 六 三 三
[キ]	判事ノ署名捺印 (重罪事件下調訊問調書ノ署名。參看) 賣買契約ノ效力 (詐欺取財ノ手段タル賣買。參看) 博徒ノ招結 (賭場開張罪ノ構成。參看) 犯跡ノ掩蔽 (詐欺取財後ノ文書偽造。參看)	丁數 五 九 〇 二 七 六 三 三
[ク]	二重起訴ノ裁判 (既ニ公訴ノ提起アリタル事件ニ對シ更ニ公訴ヲ提起シタルトキハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス)	丁數 三
[ケ]	二罪併科事件ノ審理 刑事いろは索引	丁數 三
[コ]	放火ノ結果 (併科事件ノ控訴。參看) 山林ニ露積シタル薪柴ニ放火シ延テ附近ノ柴山ヲ燒燬シタル所爲ハ放火罪ノ結果ニシテ別ニ失火罪ヲ構成スルモノニ非ス	丁數 一
[カ]	補充ノ鑑定 (鑑定書ノ補充。參看)	丁數 一
[キ]	併科事件ノ控訴 二罪併科セシ事件ニ付キ控訴セサル所爲ナリ併セテ審判シタル判決ハ不法ナリ	丁數 一
[ク]	特別裁判所トノ管轄關係 (管轄違ノ言渡。參看)	丁數 一
[ケ]	賭場開張罪ノ構成 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル所爲ハ其行爲方一回タルト常行タルトニ因リ差異ヲ生スヘキモノニ非ス	丁數 一
[コ]	重罪事件下調訊問調書ノ署名	丁數 一



重罪事件下調訊問調書ニハ判事ノ署名捺印ヲ必要トセン

町村助役ノ役場印監守

(助役ノ役場印ノ監守。參看)

徴兵ノ召集不應

(事實理由ノ不備。參看)

常行の犯罪

(賄賂開張罪ノ構成。參看)

旅費日當

(證人無資格者ノ旅費日當。參看)

鑑定書

(他事件ノ鑑定書。參看)

管轄違ノ言渡

管轄違ノ言渡ハ普通裁判所相互ノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場合ハ勿論普通裁判所ト特別裁判所トノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スヘキモノトス

監守ノ責任

(助役ノ役場印ノ監守。參看)

鑑定書ノ補充

鑑定人ニ於テ既ニ鑑定書ヲ作成シタル後之

り

か

ヲ補充スル爲メ其供述ヲ聽クハ不法ニ非ス從テ其供述ヲ錄取シタル調書ハ證據力ヲ有ス

官吏公吏ノ作成スヘキ文書ノ署名

刑事訴訟法ニ從ヒ官吏公吏ノ作成スヘキ文書ニハ代署ヲ許サス

官文書偽造行使

(詐欺取財後ノ文書偽造。參看)

他事件ノ鑑定書

(他事件ノ鑑定書ト雖モ事實承審官ニ於テ證據ト爲スニ足ルモノト認ムルトキハ他事件ノ鑑定書ナルコトヲ明示シテ證據ニ供スレコトヲ得)

代署

(官吏公吏ノ作成スヘキ文書ノ署名。參看)

訴訟費用ノ負擔

(共犯事件ノ訴訟費用負擔。參看)

創傷ノ輕重

(共職ノ創傷。參看)

通事ノ訊問手續

共犯者ノ一名ト身分上ノ關係ヲ問查セサル

公吏作成文書ノ署名

(併科事件ノ控訴。參看)

延燒

(放火ノ結果。參看)

詐欺取財ノ手段タル賣買

賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナク民法上效力ヲ生スルモノニ非ス

詐欺取財後ノ文書偽造

詐欺取財罪ヲ犯シタル後其犯跡ヲ掩蔽スル爲メ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ニ對シ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

共犯軍人ノ證人資格

共犯中其身分軍籍ニ在ルノ故ヲ以テ軍事裁判所ニ於テ被告人トナリタル者ハ證人タルコトヲ得ス

共犯事件ノ訴訟費用負擔

共犯事件ノ訴訟費用ヲ以テ共犯者中ノ一名ニ全部ノ負擔ヲ命スルモ不法ナリトセン

共職ノ創傷

(併科事件ノ控訴。參看)

延燒

(放火ノ結果。參看)

詐欺取財ノ手段タル賣買

賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナク民法上效力ヲ生スルモノニ非ス

詐欺取財後ノ文書偽造

詐欺取財罪ヲ犯シタル後其犯跡ヲ掩蔽スル爲メ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ニ對シ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

共犯軍人ノ證人資格

共犯中其身分軍籍ニ在ルノ故ヲ以テ軍事裁判所ニ於テ被告人トナリタル者ハ證人タルコトヲ得ス

共犯事件ノ訴訟費用負擔

共犯事件ノ訴訟費用ヲ以テ共犯者中ノ一名ニ全部ノ負擔ヲ命スルモ不法ナリトセン

共職ノ創傷

(併科事件ノ控訴。參看)

延燒

(放火ノ結果。參看)

詐欺取財ノ手段タル賣買

賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナク民法上效力ヲ生スルモノニ非ス

詐欺取財後ノ文書偽造

詐欺取財罪ヲ犯シタル後其犯跡ヲ掩蔽スル爲メ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ニ對シ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

共犯軍人ノ證人資格

共犯中其身分軍籍ニ在ルノ故ヲ以テ軍事裁判所ニ於テ被告人トナリタル者ハ證人タルコトヲ得ス

共犯事件ノ訴訟費用負擔

共犯事件ノ訴訟費用ヲ以テ共犯者中ノ一名ニ全部ノ負擔ヲ命スルモ不法ナリトセン

共職ノ創傷

(併科事件ノ控訴。參看)

延燒

(放火ノ結果。參看)

詐欺取財ノ手段タル賣買

賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナク民法上效力ヲ生スルモノニ非ス

詐欺取財後ノ文書偽造

く

や

ひ

ふ

こ

通事ノ訊問手續ハ不法ナリ

軍人ノ共犯事件ノ證人

(共犯軍人ノ證人資格。參看)

役場印ノ監守

(助役ノ役場印ノ監守。參看)

約束手形ト金圓ノ騙取

(金圓ト約束手形ノ騙取。參看)

原判決不利益變更ノ意義

(不利益變更ノ意義。參看)

普通裁判所相互ノ管轄

(管轄違ノ言渡。參看)

不利益變更ノ意義

刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サ

ストハ第一審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルコトヲ許サレノ趣旨ニシテ上告裁判

所ヨリ移送ヲ受ケタル控訴裁判所カ上告裁判所ノ破毀シタル第二審判決ヲ被告人ノ不

利益ニ變更スルヲ禁シタルモノニ非ス

公訴不受理ノ言渡

(二重起訴ノ裁判。參看)

控訴セサル所爲ノ審判

(二重起訴ノ裁判。參看)

刑事いんば索引



刑事いろは索引

一個ノ創傷ナリト雖モ二人以上共毆シテ共  
犯中何人ノ負傷セシメタルヤ知ル能ハサ  
ルトキハ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサ  
ルモノトス

金圓ト約束手形ノ騙取

金圓ノ騙取ト約束手形ノ騙取トハ二罪トシ  
テ處罰スヘキモノニ非ス

期間ノ範圍

(上告趣意書提出ノ期間、參看)

金庫出納役

(稅務署長ノ職權、參看)

擬律錯誤

(詐欺取財後ノ文書偽造、參看)

身分上ノ關係調査

(通事ノ訊問手帳、參看)

證據

(他事件ノ鑑定書、參看)

下調訊問調書ノ署名捺印

(重罪事件下調訊問調書ノ署名、參看)

證人無資格者ノ旅費日當

證人タル資格ナキ者ニ對シ證人トシテ宣誓  
ヲ爲サシムルモ其供述ハ罪證ニ供スルコト

五 二 四 六 八 〇 七 五

四

ヲ得ス然レトモ其者ノ旅費日當ハ有罪ノ判  
決ヲ受ケタル被告人ナシテ全部若ハ幾分  
ノ負擔ヲ爲サシム

助役ノ役場印ノ監守

町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助スルモノナ  
レハ特ニ其代理ヲ爲ス場合ニアラサルモ役  
場印ハ當然之ヲ監守スルノ責アリ

事實理由ノ不備

明治十三年ノ徵兵ニシテ明治二十八年ニ於  
テ後備役ニ在ル事由ヲ明示セス轍ク後備兵  
ノ召集ニ應セサル所爲アリトシテ處罰シタ  
ル判決ハ事實理由ヲ明示セサル不法アルモ  
ノトス

上告趣意書提出ノ期間

刑事訴訟法第二百七十六條ニ所謂期間ニハ  
上告趣意書提出ノ期間ヲ包含ス

收入官吏

(稅務署長ノ職權、參看)

全部ノ負擔

(共犯事件ノ訴訟費用負擔、參看)

稅務署長ノ職權

稅務署長ハ收入官吏ニシテ現金ヲ取扱フ場  
合ニ於テハ金庫出納役トナルモノトス

三 五 〇 七 〇 〇 〇

法 文 表

刑法

三〇五條

刑事訴訟法

二六五條一項

二七六條

丁數

五

八九

七〇



月日目錄

宣告月日	番號	判決結果	原審	丁數
十二月三日	三十二年 れ一四五二號	破毀	宮城	一
十二月四日	三十二年 れ一四四七號	棄却	大阪	四
十二月六日	三十二年 れ一四九三號	破毀	宮城	六
十二月十日	三十二年 れ一四六一號	破毀	東京	〇
十二月十一日	三十二年 れ一三三七號	棄却	廣島	五
十二月十一日	三十二年 れ一三三三號	棄却	大阪	三
十二月十三日	三十二年 れ一四五三號	棄却	宮城	三
十二月十三日	三十二年 れ一四五五號	破毀	宮城	三
十二月十三日	三十二年 れ一五二二號	破毀	函館	四
十二月十八日	三十二年 れ一七三三號	棄却	廣島	五
十二月二十日	三十二年 れ一二九二號	破毀	東京	五
十二月二十日	三十二年 れ一五二五號	棄却	東京	五

刑事月日目錄

一



刑事月日目錄

十二月二十一日	三十三 年	九七三二九號	棄却	八	大阪	九
十二月二十一日	三十三 年	九一二六八號	棄却	七	名古屋	七
十二月二十一日	三十三 年	九一二六八號	棄却	七	名古屋	七
十二月二十四日	三十三 年	九一〇〇五號	棄却	七	東京	七
十二月二十四日	三十三 年	九一三五六號	破毀	六	宮城	六
十二月二十四日	三十三 年	九一四九一號	棄却	六	宮城	六
十二月二十四日	三十三 年	九一五三〇號	棄却	六	東京	六
十二月二十五日	三十三 年	九一五七六號	破毀	六	大阪	六
十二月二十七日	三十三 年	九一五二四號	棄却	六	東京	六

總計二十二件  
 破毀.....八件  
 棄却.....十四件

人名音字目錄

人名	番號	原審	丁數
今 清之進 <small>告被</small>	三十三 年 九一五二二號	函館	四
石岡初五 <small>郎外一名告被</small>	三十三 年 九一七三二號	廣島	五
飯田善四 <small>郎外三名告被</small>	三十三 年 九一七三九號	大阪	五
盧 籍 <small>洋外二名告被</small>	三十三 年 九一三五六號	東京	六
早川 龜 <small>市公訴私訴 上告人</small>	三十三 年 九一二六八號	名古屋	七
李 甲 <small>元告被</small>	三十三 年 九一五三〇號	東京	八
高橋 熊 <small>吉私訴被 上告人</small>	三十三 年 九一〇一二號	東京	七
上野 萬太 <small>郎私訴被 上告人</small>	三十三 年 九一四五三號	宮城	三
植田重太 <small>郎外一名告被</small>	三十三 年 九一四五五號	宮城	三
黒 木 <small>光告被</small>	三十三 年 九一三三七號	廣島	五
山下 由 <small>藏告被</small>	三十三 年 九一〇〇五號	宮城	七
山子 義 <small>令告被</small>	三十三 年 九一四九一號	宮城	八

刑事人名音字目錄



刑事人名目録

〔支〕	松井 鎗太郎 <small>被告</small> .....	三十三年	れ一五七六號	大阪.....	六
〔五〕	藤原 菊太郎 <small>外一名被告</small> .....	三十三年	れ一四四七號	大阪.....	四
〔六〕	福岡 慶介 <small>私訴被告</small> .....	三十三年	れ一二六八號	名古屋.....	六
〔七〕	小林 兼次郎 <small>公訴私訴被告</small> .....	三十三年	れ九一二二號	東京.....	七
〔八〕	小貝 庸吉 <small>外二名私訴被告</small> .....	三十三年	れ一五二四號	東京.....	八九
〔九〕	江花 正孝 <small>外五名公訴私訴被告</small> .....	三十三年	れ一四五三號	宮城.....	三
〔一〇〕	赤祖 父茂 <small>郷外二名被告</small> .....	三十三年	れ一三三三號	大阪.....	三
〔一一〕	木村 勇四郎 <small>被告</small> .....	三十三年	れ一四六一號	東京.....	〇
〔一二〕	宮澤 齊二郎 <small>被告</small> .....	三十三年	れ一四九三號	宮城.....	八
〔一三〕	三俣 傳吾 <small>外一名被告</small> .....	三十三年	れ一五二五號	東京.....	五
〔一四〕	柴 佐吉 <small>被告</small> .....	三十三年	れ一二九二號	東京.....	五
〔一五〕	下阪 豊吉 <small>外一名被告</small> .....	三十三年	れ一四二二號	長崎.....	七〇
〔一六〕	志村 新太郎 <small>公訴私訴被告</small> .....	三十三年	れ一五二四號	東京.....	八九
〔一七〕	平塚 忠作 <small>被告</small> .....	三十三年	れ一四五二號	宮城.....	一

# 大審院刑事判決録 第六輯 第十一卷

○放火ノ件 明治三十三年九月第一四五二號  
 明治三十三年十二月三日宣告

○判決要旨

山林ニ露積シタル薪柴ニ放火シ延テ附近ノ柴山ヲ燒燬シタル所爲  
 ハ放火罪ノ結果ニシテ別ニ失火罪ヲ構成スルモノニ非ス

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院  
 被告人 平塚 忠作

右放火被告事件ノ控訴ニ付明治三十三年十月二十三日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告忠作  
 ナ輕懲役六年ニ處ス公訴費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ原院檢事長川目亨一ハ上

放火ノ結果



告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處

上告趣意書ハ被告人ハ原判決ノ認ムル如ク山上ニ露積シタル二千餘把ノ薪柴ニ放火シタルモノニシテ其火ハ延テ該所ニ近接シタル龜山太治助外一名所有ノ柴山若干ヲ燒燬スルニ至リタリト雖モ是レ元來被告人ノ故意ニ出テタルコト非ス又別段過テ火ヲ失シタルニモ非ス實ニ放火ノ結果ニ外ナラス然ルニ原判決カ此ヲ以テ別ニ失火罪ヲ組成スルモノト判定シタルハ失當ナリ原院ハ或ハ被告人ノ放火シタル薪柴ノ近傍ニハ龜山太治助等ノ柴山アリテ之ニ延燒スルノ虞アルニ拘ハラヌ被告人カ其延燒ヲ豫防スルノ準備ヲ爲サスシテ薪柴ニ放火シ爲メニ事此ニ至リタルハ即チ被告人ノ不注意ヨリ出テタリトノ趣旨ヨリ別ニ失火罪ヲ構成スルモノト認メタルヤモ計リ難シト雖モ被告人ハ其延燒ノ根原タル薪柴ニ放火シタル廉ヲ以テ已ニ重罪ノ制裁ヲ受クルモノナルニ拘ハラヌ之レニ對シ延燒ノコトヲ願慮セザリシハ不注意ナリトテ失火罪ノ制裁ヲ付セントスルカ如キハ實ニ謂レナキ處分ト謂ハサルヲ得ス之ヲ要スルニ原判決ハ罰スヘカラサル事實ニ對シ刑ヲ適用シタルモノニシテ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀セラルヘキモノト思料スト云フニ在リ○因テ原判決ヲ閱スルニ上告論旨ノ如ク被告ハ龜山貞治外二名カ平塚健治ヨリ其所有山林ノ柴ヲ買入レ之ヲ薪取テ其場ニ積置キタル處之ニ放火シテ其全部二千二百把ヲ燒燬シ其火ノ餘勢延テ同所ニ接近シタル龜山太治助所有ノ柴山並ニ平塚捨吉所有ノ柴山ヲ燒燬シタル事實ナレハ縱令燒燬シタル物ハ其性質ヲ異ニスルニモセヨ右太治助捨吉等ノ柴山ヲ燒燬キタ

ルハ則チ被告カ貞治等ノ薪柴ニ放火シタル結果ニ過キササルヲ以テ別ニ失火罪ヲ構成スルモノニアラス故ニ原院カ之ヲ失火罪トシテ處斷シタルハ擬律錯誤ニシテ上告論旨ハ其理由アリ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

右

平塚 忠 作

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ刑法第四百六條ニ該當スルヲ以テ被告ヲ輕懲役六年ニ處ス公訴裁判費用ハ同第四十五條ニ依リ被告ノ負擔トス

明治三十三年十二月三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保總立會宣告ス



○私書變造行使ノ件

明治三十三年十一月四日  
明治三十三年十二月四日宣告

○判決要旨

他事件ノ鑑定書ト雖モ事實承審官ニ於テ證據ト爲スニ足ルモノト認ムルトキハ他事件ノ鑑定書ナルコトヲ明示シテ證據ニ供スルコトヲ得

第一審 神戸地方裁判所豊岡支部 第二審 大阪控訴院

被告人 藤原菊太郎 辯護人 高木益太郎  
外一名

右私書變造行使被告事件ニ付明治三十三年十一月六日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告兩名上告趣意ノ要旨ハ原院カ刑法第一百條ヲ適用處斷シタルハ不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○原判決ヲ閱スルニ被告兩名ハ私書變造行使ノ所爲アルモノトシ刑法第二百十條第二項ヲ適用處斷シアルヲ以テ更ニ不當アルコトナシ

辯護人高木益太郎辯明書ノ趣旨ハ原判決ハ長石萬兵衛偽證被告事件ノ鑑定人金澤義方ノ鑑定書ヲ本件

ノ證據ニ援用シタルハ不法ナリ何トナレハ同人ハ別箇ノ被告事件ニ付鑑定人トシテ宣誓シタルモノナレハ其中立ハ現ニ宣誓シタル事件ニ付テ鑑定ノ效アルニ止マリ曾テ宣誓シタルコトナキ本件ニ付何等ノ證據力ヲ有スヘキ譯合ナキノミナラス刑事訴訟法第九十條ニ所謂鑑定人ノ供述トハ則チ其訊問ヲ受ケタル被告事件ニ付直接供述シタルモノヲ指スモノニシテ別箇ノ被告事件ニ關スル供述ヲ指スモノニアラサルハ勿論ナリ而シテ同條以外ニ前記ノ證據方法ヲ認容シタル法律ナキヲ以テ原裁判カ右鑑定書ヲ本件ノ證據ニ援用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○他事件ニ付テノ鑑定書ト雖モ事實承審官ニ於テ證據ト爲スニ足ルモノト認ムルトキハ其他事件ニ付テノ鑑定書ナルコトヲ明示シテ證據ニ供スルモ不法ニアラス

同追加辯明書ノ第一點ハ原院ハ上告人ニ對シ附木ノ裏面ニアル數字ヲ擅ニ變更シタル所爲アリト認メタレトモ只物品引渡ノ量目ヲ掲ケタル附木ハ固ヨリ刑法第二百十條ニ所謂私文書ノ中ニ含マルヘキモノニアラス故ニ原裁判所カ該所爲ニ對シ刑法第二百十條第二項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原文ニ認メタル如キ文書ハ之ヲ紙面ニ記載シタルト附木ニ記載シタルトヲ問ハス刑法第二百十條ニ所謂私文書中ニ包含スルハ勿論ナルニ依リ論旨ハ理由ナシ

同第二點ハ若シ右所爲ヲ尙ホ私文書偽造ナリトセンカ上告人ハ賣買代金ノ内支拂ノ義務ヲ免カレンカ爲メ買主カ生贖ノ受渡ノ貫目ヲ記載シタル附木ノ裏面ノ「正味八貫云々」ノ文字ヲ擅ニ「六貫云々」



ト變更シテ之ヲ行使シタルモノナレハ其餘ノ私書變造ト云ハソリ寧ロ賣買ニ關スル權義ノ證書ヲ變造シタリトノ法則ヲ適用スヘキ筈ナラスヤ故ニ原院カ刑法第二百十條第二項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ畢竟被告人ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス同第三點ハ刑事裁判所ハ犯罪事實ヲ確定スルニアラサレハ有罪ノ裁判ヲ下スヘキモノニアラス故ニ未タ訴訟上ノ疑問ヲ審究セスシテ輒ク或ル犯罪事實ヲ認メタルハ越權ノ措置タルヲ免カレズ抑モ本件私書變造ノ所爲ハ果シテ何人ノ行動ニ基クモノナルヤノ爭點ニ就キ原判文ヲ查スルニ原院ハ只「被告ノ内執レカノ執筆ニテ其變更ヲ爲シ云々」ト漠然説明シ去リタルノミニテ被告親子ノ内執レノ變造ニ出テタルカヲ指定セス之ヲ疑問ノ裡ニ置キタル儘上告人兩名ヲ有罪トナシタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本件ノ私文書變造ハ被告兩名ノ共謀ニ出テタルモノナレハ兩名ノ内執レノ執筆ニテ變造スルモ犯罪構成ニ影響ヲ及ホサ、ルヲ以テ論旨ハ上告ノ理由トナラス

同第四點ハ鑑定人金澤義方ハ本件押取ノ附木中正味ナル文字ノ下六ノ字ハ後日ノ變造ニ係ルモノナルヤ否ヤヲ鑑定スル爲メ呼出サレタルモノナレハ其鑑定事項ハ被告兩名ノ私書變造事件ニ直接ノ關係アルノミナラス本件ノ證人長石萬兵衛ノ偽證事件ハ本件ノ審理中同人カ公廷ニ於ケル陳述ノ結果之ヲ偽證ト認メラレ勾留トナリタルモノニシテ乃チ同時ニ同一ノ裁判所内ニ於テ本件ヲ主トシ偽證事件之ニ附帶シテ繫屬シタルモノナレハ兩件ニ共通スル事項ニ付鑑定人ヲ訊問スルニ當リテハ只鑑定人ト偽證

被告人トノ間ニ於ケル身分上ノ關係ヲ調査シ其關係ニ付宣誓スルニ止メス同人ト私書變造被告人トノ間ニ於ケル身分上ノ關係ヲモ調査シ此關係ニ付宣誓セシムヘキ筈ナリトス然ルニ裁判所ハ鑑定人ニ對シテ右ノ法式ヲ踐行セサリシヲ以テ其鑑定書ハ本件ノ證據トシテハ有效ノモノニアラス故ニ之ヲ採用シタル原判決ハ探證法ニ違反セリト云フニ在レトモ○鑑定人金澤義方ハ長石萬兵衛ノ偽證被告事件ニ付鑑定人トシテ召喚シタルモノナルニ依リ縱シヤ其事項カ本件ノ私書變造ニ牽聯スルニモセヨ長石萬兵衛ト鑑定人トノ間ニ於ケル身分上ノ關係ヲ調査スルニ止メ本件ノ被告人ト鑑定人トノ間ニ於ケル身分上ノ關係ヲ調査スルノ必要ナシ故ニ其鑑定書ノ有效ナルコト論ヲ待タス然レハ原院カ長石萬兵衛ノ偽證被告事件ニ付テノ鑑定書ナルコトヲ明示シテ之ヲ本件ノ罪證ニ供シタルハ不法ニアラス右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス明治三十三年十二月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス



○詐欺取財等ノ件

明治三十三年十一月四九三號  
明治三十三年十二月六日宣告

○判決要旨

管轄違ノ言渡ハ普通裁判所相互ノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル  
場合ハ勿論普通裁判所ト特別裁判所トノ管轄ニ付テノ規定ニ違背  
シタル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スヘキモノトス

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 宮澤齊二郎

右詐欺取財等被告事件ニ付明治三十三年十一月十日宮城控訴院ニ於テ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シ  
タル判決ニ對シ原院檢察長川目亨一ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ  
判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ刑事訴訟法第二百二十二條第三百十五條第二項ニ依レハ事件カ他ノ通常裁  
判所ノ管轄ニ屬シタルト特別裁判所ニ屬シタルトナ問ハス苟モ其事件ニ付裁判權ヲ有セサルトキハ裁  
判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ本件ニ付原院ハ陸軍々法會議ノ管轄ニ屬スヘキコトヲ  
認メナカラ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ハ是認シ檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ失當ニシテ原

判決ハ破毀スヘキモノナリト云フニ在リ○因テ按スルニ原院ノ認ムル所ニ依レハ本件ハ被告人宮澤齊  
二郎ニ對スル詐欺取財事件ノ公訴ニシテ同人カ陸軍軍樂學校樂生現役中ノ者ナルカ爲メ陸軍刑法第九  
條陸軍治罪法第一條第一項ノ規定ニ從ヒ軍法會議ニ於テ審判スヘキモノナルヲ以テ原院ハ刑事訴訟法  
第二百六十二條ノ規定ニ從ヒ公訴不受理ノ言渡シタル第一審判決ヲ取消サ、ルヘカラスルモノトス何  
トナレハ事件カ裁判所ニ於テ審判スヘキ事件ノ範圍内ニ屬スル場合ニ於テ受訴裁判所ノ權限ニ欠缺ア  
ルトキハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノニシテ受訴裁判所ノ權限ノ欠缺ハ普通裁判所ト特別裁判所トノ  
管轄權ニ付テノ規定若クハ普通裁判所ノ相互ノ管轄ニ付テノ規定ヲ遵守セサルヨリ生スル所ノモノナ  
ルトトハ論テ俟タサルノミナラス刑事訴訟法第三百十五條第二項ニ「其事件地方裁判所又ハ區裁判所  
ノ權限ニ屬スルモノト決定シタルトキハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ送致ス可シ若シ特別裁判所ノ權  
限ニ屬スルモノト認メタルトキハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ」トアリ又明治十八年第十二號  
布告第四條ニ「軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ云々」  
トアルニ依テ之ヲ見ルモ管轄違ノ言渡ハ普通裁判所ノ相互ノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場合ニ於  
テノミ之ヲ爲スヘキモノニアラスシテ普通裁判所ト特別裁判所トノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場  
合ニ於テモ之ヲ爲スヘキモノナルヤ疑ヲ容ルヘカラスルヲ以テナリ然ルニ原院ハ其判決ニ本件ノ管轄  
違タル事實ヲ認メナカラ公訴不受理ヲ言渡シタル第一審判決ヲ取消サ、檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ違



法ニシテ上告ハ其理由アルモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ函館控訴院ニ移ス  
明治三十三年十二月六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○竊盜及官印盜用等ノ件

明治三十三年第一四六一號  
明治三十三年十二月十日宣告

○判決要旨

重罪事件下調訊問調書ニハ判事ノ署名捺印ヲ必要トセス

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 木村勇四郎 辯護人 田澤鎮太郎

右竊盜及官印盜用等ノ控訴事件ニ付明治三十三年十一月六日東京控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ輕懲役六年ニ處シ押收物件ヲ差出人ニ還付シ公訴費用ヲ被告ノ負擔トスル旨言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意第一ハ登記申請書ハ一般人民ヨリ官ニ提出スル私書ニシテ官ハ只單ニ之ヲ保管スルニ止マル

モノナレハ刑法第二百三條ニ所謂官文書ト稱スヘキモノニアラス然ルニ原院カ官文書ト見做シ刑法第二百三條ヲ適用シタルハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○官文書トハ必スシモ官吏ノ作成シタル文書ノミナ云フニアラス本件登記申請書ノ如キ私人ノ作成シタル文書ト雖モ已ニ之ヲ官署ニ差出シ官署ニ於テ保存スルモノハ官文書ナルヲ以テ之ヲ毀棄シタル所爲ハ刑法第二百三條第二項第一項ニ該當スルモノトス故ニ原院カ本件登記申請書ヲ毀棄シタル所爲ニ對シ同法條ヲ適用シタルハ違法ニアラス○第二ハ第一審裁判所カ第一乃至第三ノ所爲ニ對シ刑法第二百三條ヲ適用處斷シ同法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用セサルハ失當ナルニ原院カ此瑕瑾ヲ指示セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ第一審裁判所ト事實ノ認定ヲ異ニシ第一審裁判所カ官文書毀棄ト認定シタル第一乃至第三ノ所爲ハ官文書毀棄ニアラスシテ竊盜ナリト認定シ其判文ニ「原判決ハ云々印紙竊取ノ所爲ヲ官文書毀棄罪ナリト誤認シタル等ノ失當アルヲ以テ被告ノ控訴ハ其理由アリ云々」ト說示シタル以上ハ法律適用ニ付テモ所論ノ如キ失當アルコトナ原判文ニ指示スルノ要ナキヲ以テ本論旨ハ相立タス  
第一上告趣意追申書ハ之ヲ要スルニ原院カ斷證ニ供シタル登記申請書末尾ニ付シアル紙ニ「眞岡區裁判所御中」トアルハ被告ノ認メタルモノニハ相違ナキモ被告カ挾ミ置キタルモノニハアラスシテ右ハ全ク給事佐藤嘉平カ被告ノ机ニ在リタルヲ竊取シ登記申請書ノ宛名ノ所ニ差入印紙ヲ剝取リタルモノナリト云フニ在レトモ○證據ノ取捨判斷ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ採用シタル證據ニ對シ辯



解ヲ爲シテ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

第二上告趣意追申書ノ要旨第一ハ本件ハ始メ豫審ニ於テ被告ト佐藤嘉平ヲ共犯ト爲シ公判ニ付シタル所第一審ニ於テハ嘉平ヲ無罪トシナカラ其理由ヲ判示セサル欠點アルニ原判決カ其瑕瑾ヲ指示セサルハ不當ナリト云フニアレトモ○右ハ第一審ニ於ケル相被告ニ對スル判決ノ當否ヲ論難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス○第二ハ芳士戸友三郎ノ豫審ニ於ケル供述ハ誤解又ハ印紙賣捌ノ停止ヲ恐レ申立タルモノナルニ之ヲ斷證ニ供セシハ不當ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否ヲ論難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス○第三ハ本件印紙十六圓九十三錢ハ竊取シタルニアラスシテ全ク拾ヒ取リタルモノナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

第三上告趣意追申書ハ第六ノ所爲ニ對シ第一審裁判所カ刑法二百一條ヲ適用セサリシハ失當ナルニ原院カ其判文ニ右失當アルコトヲ指示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ縱シ所論ノ如キ失當ノ廉アリトスルモ原院カ第一審判決ニ他ノ瑕瑾アルコトヲ判示シ該判決ヲ取消シタル上ハ其失當ノ廉アルコトヲ指示セサルモ不法ニアラス

辯護人田澤鎮太郎上告理由追加書ノ要旨第一ハ原判文中其第四云々印紙ヲ其帖付セル紙ト共ニ剝取り該文書ヲ毀棄シタリ第五云々紙ト共ニ剝取り該文書ヲ毀棄シタリトアリ是レ右判文ニ所謂毀棄ト謂フ

事柄ノ如何ナル事實ナル乎ヲ明示セサル理由不備ノ不法アリト云フニ在レトモ○文書ヲ毀棄シタリトアル以上ハ文書毀棄罪ヲ構成スヘキ事實上ノ理由ニ欠クル所ナキヲ以テ本論旨ハ相立タス

第二ハ明治三十三年十月三十日ノ重罪事件下調訊問調書ハ書記ノ署名捺印ノミニテ判事ノ連署ナシ是レ法式ニ適セス隨テ此訊問ヲ缺キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百三十七條第三項ニハ「書記ハ本條ノ訊問ニ付特ニ調書ヲ作ル可シ」トアルノミナレハ判事ノ署名捺印ハ之ヲ要セサルヲ以テ本論旨モ亦相立タス○第三ハ原判決ニ第六ノ所爲ヲ第九十六條ニ間擬シタルハ不法ナリ如何トナレハ消印ハ印ト稱スヘキモノニアラサルヲ以テ本條ノ法文ニ該當セサレハナリト云フニ在リ○因テ按スルニ裁判所備付ノ登記消印ハ印紙ノ效用ヲ遂ケタルコトヲ證明スル官印ナルヲ以テ印ニアラストハ云フヲ得スト雖モ右ハ書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ニアラサルヲ以テ之ヲ盗用シタル所爲ハ刑法第九十七條第一項第九十五條ニ依リ處斷スヘキモノニシテ同法第九十七條第一項第九十六條第二項ニ依リ處斷スヘキモノニアラズ然ルニ原院カ其所爲ニ對シ同法第九十七條第一項第九十六條第二項ヲ適用シタルハ則チ擬律ノ錯誤ニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス但シ刑法第九十七條第一項第九十六條第二項ノ刑ハ重禁錮同法第九十七條第一項第九十五條ノ刑ハ輕懲役ニシテ本件ハ被告人ノミノ上告ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第二百九十一條第二百六十五條ノ規定ニ從ヒ原判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルヲ得サルモノトス



右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

右

木村勇四郎

原判決ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ第一乃至第三ノ竊盜ノ所爲ハ各刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ第六ノ消印盜用ノ所爲ハ同法第九十七條第一項第九十五條ニ第四第五ノ官文書毀棄ノ所爲ハ各同法第二百三條第二項第一項ニ該當シ輕罪ノ再犯ニ係ルヲ以テ第一乃至第三ノ罪ニ付テハ同法第九十二條ニ依リ各本刑ニ一等ヲ加ヘ數罪俱發ニ付同法第百條ニ依リ一ノ重キ第四ノ罪ニ從ヒ處斷シ抑收物件ハ刑事訴訟法第二百二條公訴裁判費用ハ同法第二百一條第一項ニ依リ處分スヘキモノトス因テ被告勇四郎ヲ輕懲役六年ニ處シ抑收物件ハ差出人ニ還付シ公訴裁判費用ハ全部被告ノ負擔トス

明治三十三年十二月十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○約束手形偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十三年十一月三十七號  
明治三十三年十二月十一日宣告

○判決要旨

證人タル資格ナキ者ニ對シ證人トシテ宣誓ヲ爲サシムルモ其供述ハ罪證ニ供スルコトヲ得ス然レトモ其者ノ旅費日當ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告人ヲシテ全部若シハ幾分ノ負擔ヲ爲サシム

第一審 宮崎地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 黒木 光 辯護人 三好退藏

右約束手形偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十三年八月二十七日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ヨリ上告ヲナシタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意ノ第一點ハ要スルニ原院ノ認メタル事實ニヨレハ被告ハ二通ノ約束手形用紙ヲ河野通季ニ交附シタルコトアルモ之ヲ用イテ約束手形ニ調製シタル事柄ニ關シテハ何等關係ヲ有セス換言スレハ河野通季カ二通ノ約束手形ヲ偽造シタル行爲ニ付被告カ加効シタルコトハ原判決ニ認メタル所ナリ然レハ被告ヲ教唆者ト認ムルニアラスンハ正犯トナスヲ得サルヘシ故ニ原判決ハ事實ノ認定ト法律ノ適用

證人無資格者ノ旅費日當



ト相副ハサル不法アリト云フニ在レトモ○原判旨ニ依レハ畢竟被告ハ河野通季ノ手ヲ籍リテ偽造シタルニ外ナラサレハ被告ヲ正犯トナスヘキハ當然ナリトス

同第二點ハ要スルニ原院ニ於テ公判ノ際被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ハサリシヲ以テ被告ニ最モ利益トナルヘキ證據書類ヲ示サレヌ又被告ニ於テモ充分辯解スルノ機會ヲ得サルノミナラス裁判宣告ノ日ニ於テ辯護人ノ出席モナキニ有罪ノ判決ヲ言渡サレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閲スルニ原判決ニ援用セル證據書類ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ一々被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ又ハ之ヲ被告人ニ示シ一々辯解セシメタルコトノ明記アルニ依リ前段ノ論旨ハ其謂ハレナシ又被告人カ辯護人ヲ用ユルハ辯護ノ爲メナルヲ以テ其裁判言渡シニ付テハ必スシモ辯護人ノ立會ヲ要セス

同第三點ハ要スルニ原院ノ判決ニハ小川伊勢吉外數名ノ仲裁ニヨリ云々陽ニ讓歩ヲ裝ヒ示談シタルモノナリ云々ト説示シアレトモ被告ハ陽ニ讓歩シタルニアラス最初ヨリ善意ナリシヲ以テ全ク示談セルニ至レルモノナルニ約束手形偽造罪トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○是唯原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

同擴張第四點ハ要スルニ原判決證據説明ノ部ニ「通之所有ノ財産ヲ差押ヘタル末小川伊勢吉長友儀作等ノ仲裁ニ任セ金四十圓ト金三百八十五圓トヲ兩度ニ前示ノ日時場所ニ於テ受取リタル事實ハ被告カ

當公廷ニ於テ自白スル所云々」トアルモ長友儀作ノ仲裁シタル事實ハ更ニ無之又金三百八十五圓ヲ被告カ受取ル際ニハ小川伊勢吉ハ立會セサリシナリ故ニ右ノ如キ自白ヲ爲シタルコトナシ自白セサル事實ヲ自白シタリトシテ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閲スルニ裁判長ヨリ「其仲裁人ハ誰ナリシヤ」トノ問ヒニ對シ被告ハ「小川伊勢吉長友儀作等ニテ何レモ通之ノ親戚ナリキ」ト答ヒ又「其金ハ何時受取リタルカ」トノ問ヒニ對シ「明治三十二年九月一日其當時住居セシ宮崎縣宮崎郡宮崎町ノ宅ニ於テ小川伊勢吉外二名ノ手ヲ經テ通之ヨリ金四十圓ト同月五日同縣兒湯郡都農村長友儀作宅ニ於テ儀作外二名ノ手ヲ經テ通之ヨリ金三百八十五圓ヲ受取リタリ」ト答ヒタルコトノ記載アルニヨリ論旨ハ謂ハレナシ

同第五點ハ要スルニ本件ノ豫審決定ハ第一金三百八十五圓ヲ被告カ領收シタル場所ハ長友儀平宅ト記載アルハ事實ニ反ス第二河野通季ハ會テ放蕩ナリシモ今日ニ在リテハ決シテ放蕩ニアラサルニ今日ニ在テモ尙放蕩ナリ愚昧ナリトシタル不當アリ第三被告ト通季トノ貸借關係ヲ明ニスル爲メ通季カ所有スル帳簿ノ押收ヲ願出テタルニ之ヲ採用セサル不當アリ第四證人タルノ資格ナキ河野佐太郎小川伊勢吉ヲ證人トシテ取調ヘタル不法アリ第五拒證書作製ノ點ニ付キ取調ヲ爲ササル不法アリ第六手形ニ貼用シアル印紙ヲ通季カ用意シテ持參シ居リタルヤ否ヤヲ取調ヘサル不法アルヲ以テ此決定ニ基ケル原判決ハ不法ナリト謂フニ在レトモ○是既ニ確定セル豫審決定ヲ批難スルニ止マルヲ以テ原判決ニ對ス



ル上告ノ理由トナラス

同第六點ハ要スルニ原院公廷ニ於テ申請シタル各證人ハ尤モ必要ナルニ拘ハラズ之ヲ不必要トシテ排斥シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人喚問申請ノ許否ハ事實承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ其許否ニ對スル論難ハ上告ノ理由トナラス

同第七點ノ要旨ハ原院ノ判決ニヨレハ訴訟費用ハ全部之ヲ上告人ノ負擔トストアリ然ルニ豫審中通季ノ親戚ナル河野佐太郎及通季同居ノ雇人小川伊勢吉ヲ證人トシテ取調タル調書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリトシテ先キニ上告ヲ爲シ大審院ニ於テ破毀セラレタルニモ拘ハラズ其證人ノ旅費日當等ヲ被告ノ負擔トシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人タルノ資格ナキモノヲ證人トシテ宣誓セシメタル結果其供述ヲ罪證ニ供スルコトヲ得サルモ其者ノ旅費日當等ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告人ヲシテ裁判費用トシテ全部若クハ幾分ヲ負擔セシム可キハ當然ナルニヨリ論旨ハ理由ナシ

同第八點ノ要旨ハ原判決事實認定中ニ「通季之所有ノ財産ヲ差押ヘタル末云々」トアルモ被告カ差押ヘタル財産ハ單ニ通季一人ノモノニアラス通季及通季ノ妻ノ物品等數十點アリタルコトハ執達吏差押調書ニ因リ明カニシテ即事實相違ノ不法アリ又「金三百二十四圓六十錢ノ約束手形ハ一旦之ヲ通季ニ返附シタルモ其後事ニ託シテ再ヒ之ヲ取入レ云々」トアルハ畢竟探ルヘキ證據ノ現存スルニ拘ハラズ之ヲ不問ニ付シ通季ノ一定セサル供述ヲ採リテ虛無ノ事實ヲ認メタルモノニシテ不法ナリト云フニ在レト

モ○是全ク原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

同第九點ノ要旨ハ原判決ハ河野通季之振出しノ金一千一百圓ノ約束手形ニ裏書名義人アルコトヲ認メス果シテ裏書名義人ナシトセハ合式ノ手形ニアラス無効ノモノタルヘシ而シテ被告カ現ニ受領セシ手形ニハ裏書人ノ記名調印アリ故ニ原判決ハ虛無ノ事實ヲ認メタルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ金一千一百圓ノ約束手形ノ裏書欄内ニ通季ヲ裏書名義人トナシ黒木光ニ對シ表面ノ金額ヲ支拂フヘキ旨ノ裏書ヲ爲サシメ之ヲ受領シタル事實ヲ認メアルヲ以テ論旨ハ謂ハレナシ

同第十點ノ要旨ハ原判決ハ刑法第二百九條ヲ適用シタルモ本件ハ之ヲ約束手形偽造事件トシテ同條ヲ適用スヘキモノニアラス如何トナレハ第一本件ノ手形成立ニ付テハ河野通季ハ徹頭徹尾關係ナキハ原院ノ認ムル所ナルニヨリ良シヤ通季ノ裏書名義人トスルモ單ニ通季ト被告トノ貸借金額ヲ表シタル信用證券ニ過キス第二約束手形ニ通トモ商法上規定ノ如ク壹貳參ノ文字ヲ用ヒサルヲ以テ合式ノ約束手形ニアラス第三原院ハ金三百二十四圓六十錢ノ手形ニ付テハ拒證書作製ノ事實ヲ認メス然レハ該手形ニ付テハ裏書人河野通季ニ對シテ請求權ナキモノニシテ法律上約束手形ノ效ナキモノナリ又金壹千壹百圓ノ手形ハ拒證書作製義務ヲ免除スルモノナルモ右義務免除ノ旨ヲ裏書人ニ通知シタル確證アルニアラサレハ是亦裏書人ニ對シ償還請求ノ權ナキニヨリ手形ノ效ナシ第四河野通季カ金員ヲ支拂ヒタル



ハ其約束手形ノ執行上支拂ヒタルコアラサルヲ以テ手形事件ヲ以テ論スヘキモノニアラサレハナリト云フニ在レトモ○右第一ハ河野通之ノ關係ナキニ同人ヲ約束手形ノ裏書人トナシタルニヨリ約束手形裏書偽造罪ニ問擬スヘキハ當然ナリ第二ハ原判決ニハ壹貳參ノ文字ヲ用ヒタルモノト認メアルニヨリ論旨ハ其認定ニ對スル批難ニ過キス第三ハ荷モ約束手形ニ裏書ヲ偽造シ其裏書名義人ニ對シ請求權アルモノ、如ク取捨ヘ之ヲ行使スルニ於テハ其拒證書作製ノ有無又ハ拒證書作製義務免除ノ通知ノ有無ニ關セス約束手形偽造裏書行使罪ヲ構成スルハ勿論ナリ第四ハ約束手形ノ裏書ヲ偽造シ之ヲ行使シタル以上ハ之ニ因テ金員ヲ得ルト否トニ關セス約束手形裏書偽造行使罪ヲ構成スルモノトス

辯護人三好退藏上告趣意辯明書ノ第一點ハ詐欺取財罪ヲ構成スルニハ欺罔又ハ恐喝シテ財物證書類ヲ騙取シタルコトヲ要ス本件ニ於テハ被告ハ約束手形ヲ偽造シタルト云フノ事實ハ假リニ之アリトスルモ爲メニ被告カ取得シタル金錢ハ詐欺ノ結果ナリト云フコトヲ得サルナリ蓋シ本件ニ於テ金錢ノ授受アリタルハ差押ノ結果正當ニ成立シタル示談ニ基因スルモノナリ然ラハ即通之ヲシテ錯誤ニ陷ラシメ依テ騙取シタルト云フコトヲ得ス然ルニ原院ハ本件ヲ欺罔ノ所爲アリトシ刑法第三百九十條ニ問擬シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ニ認メタル事實ニ依レハ本件詐欺ノ手段タル單ニ偽造手形ノ行使ニ止マラス其行使ノ結果通之ヲシテ手形ノ偽造ナルコトヲ主張シ爲メニ通季ヲ罪ニ陷ルコト忍ヒス止ヲ得ス示談ヲ爲スノ外逃ル、ニ道ナキ窮境ニ陷ラシメ果シテ示談ヲ試ム

ルニ至ラハ陽ニ讓歩ヲ裝ヘテ減額ヲ承諾シ依リテ騙取ノ目的ヲ達セントノ計略ニ出テ其計略着々中リ通之ハ手形ノ偽造ナルコトヲ察知シナカラ終ニ其術中ニ陥リ金員ヲ交附スルニ至リタルモノナレハ本件金員ノ授受ヲ以テ詐欺ノ結果ニアラスト云フヲ得サルニヨリ論旨ハ上告ノ理由トナラス

第二點ハ要スルニ原院公判始末書ヲ閱スルニ被告カ内田小太郎外五名ヲ證人トシテ喚問アリタシトノ申請ニ對シ裁判長ハ檢事ノ意見ヲ求メタルニ止マリ列席判事ノ合議ヲ爲サスシテ獨斷ニテ其決定ヲ言渡シタル不法アリト云フニ在レトモ○列席判事ノ合議ノ有無ハ必スシモ公判始末書ニ記載スルヲ要セサルニ依リ公判始末書ニ合議ヲ爲シタルコトノ記載ナシトテ直チニ合議ヲ爲サリシモノト云フヲ得サルノミナラス果シテ合議ヲ爲ササリシモノト認ム可キ事蹟ナキニヨリ論旨ハ上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十二月十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス



○公文書偽造行使ノ件

明治三十三年九月三三號  
明治三十三年十二月十一日宣告

●判決要旨

町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助スルモノナレハ特ニ其代理ヲ爲ス  
場合ニ非サルモ役場印ハ當然之ヲ監守スルノ責アリ

第一審 富山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 赤祖父茂郷 辯護人 佐藤義彦  
外二名 磯部四郎

右公文書偽造行使被告事件ニ付明治三十三年十月九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被  
告三名及茂郷善一郎辯護人佐藤義彦ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告茂郷善一郎ノ上告趣意ハ原院ノ判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○其違  
法ノ點ヲ指示セサルニ付説明ヲ附スルコト由ナシ

被告榮次郎上告趣意ノ要旨ハ被告等ハ第一審ニ於テ全部證據不充分トシテ無罪ノ言渡シヲ受ケタルニ  
原院ハ檢事ノ控訴ニ依リ審理ノ末督促令狀ノ送達書ヲ偽造行使シタル事實ノミ有罪ノ判決ヲ爲シ其他  
ノ各事實ニ付テハ證據十分ナラストセラレタリ然レハ此公訴事實ニ對スル檢事ノ控訴ハ全ク理由ナカ

リシモノナレハ此部分ニ付テハ控訴ヲ棄却セラルヘキ筈ナルニ檢事ノ控訴ハ理由アルモノトシ第一審  
判決ノ全部ヲ取消サレタルハ刑事訴訟法ノ法則ヲ適用セサル不法アリト云フニ在レトモ○檢事ノ控訴  
ハ第一審判決ノ全部ニ對スルモノナレハ苟モ第一審判決ニ不當ノ廉アルトキハ檢事ノ控訴ヲ理由アリ  
トシ第一審判決ノ全部ヲ取消スヘキハ當然ナルニ依リ論旨ハ上告ノ理由トナラス  
被告茂郷善一郎ノ辯護人佐藤義彦上告趣意ノ第一點ハ被告榮次郎ノ上告趣意ト全然同一ナルニ依リ其  
理由ナキコトハ右ニ對スル説明ニテ了解ス可シ

同第二點ノ要旨ハ原判決ハ督促令狀送達書ヲ被告等ノ偽造ニ係ルモノト認定セラレタリ而シテ其説明  
ヲ見ルニ前略第六號證據物ナル送達書ヲ見ルニ被告善一郎カ代筆シ遣ハシタリト前示ノ如ク認ムル下  
欄ノ文字ト上欄ノ年月日奥田村長代理助役赤祖父茂郷トアル文字ハ皆同一筆蹟ニシテ云々トアリ然ル  
ニ送達書ノ下段ノ前欄「本人不在ニ付同人母ニ向イ代印方請求ナシタルモ不應」ト記載セル部分ハ被  
告善一郎ナルコトヲ善一郎ニ於テ認メシモ其末欄ニ「本人不在ニ付同人母ニ向ヒ請取方及代印ヲ請求  
シタルモ應セサルニ付キ持歸リ助役ニ渡シタリ」トアル部分即原判決事實ニ善一郎ノ自記ニ係ハルモ  
ノト認定セラレタル部分ハ善一郎ノ曾テ認メサル所ナリ然ルニ之ヲモ善一郎カ認メタルモノ、如ク判  
定シ從テ上段奥田村長代理助役赤祖父茂郷トアル部分モ又善一郎ノ筆記ニ係ルモノト認定セラレタル  
ハ誤謬ノ事實ニ基ケル不當ノ判定ナリ且下段末欄ト上段奥田村長云々ノ文字ハ收入役佐倉某ノ手蹟ナ

助役ノ役場印ノ監守



ルコトヲ論シ決シテ偽造ニアラサル旨辯論シタルニモ拘ハラス却テ善一郎ノ筆蹟トセラレタルハ意外ニ感スル所ナリ要スルニ原判決ハ證據ノ法則ニ違背スル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告榮次郎ノ第一回豫審調書中督促令狀ノ送達書ノ下欄ニ本人不在ニ付キ同人母ニ向テ請求方及代印方ヲ請求シタルモ應セサルニ付持歸リ助役ニ渡シタリトアル文字ハ奥田村役場ニ於テ青木善一郎ニ頼ミ書キ賞ヒ同所ニ於テ自カラ使丁トシテ署名捺印シタル旨供述シタル記載ト第一審公判始末書中被告善一郎ハ督促令狀ノ送達書ヲ岡田ノ母ニ渡セシモ拒テ名ヲ書カヌ又判モ押サヌニ付其取扱ヒノ記載方ヲ代筆シ吳レト深川榮次郎ヨリ頼マレ其事由ヲ代筆シ遣ハシタリ云々旨供述シタル記載トヲ總合シテ右督促令狀送達書ノ下欄ニ本人不在ニ付同人母ニ向ヒ請求方及ヒ代印方ヲ請求シタルモ應セサルニ付キ持歸リ助役ニ渡シタリトアル文字ハ善一郎ニ於テ自記シタリト認メタルモノト判斷シ而シテ其文字ト上欄ノ年月日奥田村長代理云々トアル文字ト同筆蹟ナルニ依リ是又善一郎ノ筆蹟ナリト認定シタルモノタルヤ明ニシテ本論旨ハ畢竟右事實ノ認定證據ノ判斷ニ對スル批難ニ外ナラサレハ上告適法ノ理由トナラス

同擴張第三點ハ要スルニ原判文中「其茂郷ノ名下ニハ茂郷ノ管掌ニ係ル助役ノ職印ヲ尙右送達書ノ上部ニハ茂郷ノ管掌ニ係ル奥田村役場印ヲ何レモ茂郷押捺シ云々」トアリ然レトモ被告茂郷ハ奥田村助役ニシテ村長ニアラス而シテ村役場印ハ常ニ町村長ノ保管ニ係ハルモノニシテ町村制ニ依レハ町村長

ノ故障アルトキニアラスンハ助役ハ町村長ヲ代理スルコトナク町村長ヲ代理スルトキニアラスンハ町村役場印ヲ管掌スルコトナシ故ニ被告茂郷カ助役トシテ町村役場印ヲ管掌シタリトノ事實ヲ認定セシムハ須ク其事實ノ理由ヲ明示セサルヘカラス再言セハ單ニ當時助役タル茂郷カ町村役場印ヲ盗用シタル事實ナランニハ固ヨリ監守者自カラ犯シタルモノト云フ可カラサルヤ論ヲ俟タズ故ニ被告カ助役ニシテ尙ホ村役場印ヲ監守セリト云ハンニハ當時特ニ村役場印ヲ管掌セル事實ヲ説示セサルヘカラス然ルニ原院ハ「又送達書ノ上欄中上部ニ押捺シアル奥田村役場印云々ハ被告茂郷ノ管掌ニ係ル印判ナレハ同人ノ盜捺シタルモノト認ム可ク」ト説明シ其茂郷カ管掌セル事實理由ニ言及セサリシハ刑事訴訟法第二百三條ノ罪トナルヘキ事實及證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示スヘシトアル規定ニ反スルモノト思料スト云フニ在レトモ○町村制ニ依レハ町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助スルモノナルニ依リ特ニ町村長ヲ代理スル場合ニアラサルモ町村役場印ノ如キハ常ニ之ヲ監守スルノ責アルモノトス故ニ町村助役タルノ確證アル以上ハ特ニ役場印管掌ノ點ニ付證據ヲ舉示スルノ要ナキモノトス

同第四點ハ要スルニ原判決ハ本件督促令狀送達書ハ被告善一郎ノ手記ニ係ルモノト事實ヲ確定セラレタリ而シテ其認定セラレタル理由ヲ見ルニ上欄本文ト下欄受取人ノ署名捺印シ能ハサル事由ノ記載ト同手蹟ニシテ其下欄ノ部分ハ被告善一郎ノ自記ト認メシニヨル然ルニ同送達書下欄ニハ受取人ノ署名捺印シ能ハサル事由ノ記載二個所アリ而シテ甲ノ部分ハ善一郎ニ於テ自筆ト認メ乙ノ部分ハ是ヲ認メ



ス故ニ原院カ右送達書上欄ノ手跡ト對照セラレタルハ下欄ノ甲ノ部分ナルカ將タ乙ノ部分ナルカ之ヲ明示セラレサルハ理由ノ不備ナリ且原判文事實ノ部ニ「云々善一郎執筆シ同月十六日付奥田村長代理助役赤祖父茂郷名義ニテ督促令狀一通使丁ヲ以テ岡田五郎平ニ送達セシムル旨ノ送達書一通ヲ認メ尙ホ其下欄内ニ本人不在ニ付キ同人母ニ向テ請取方及代印ヲ請求シタルモ應セサルニ付キ持歸リ助役ニ渡シタリト認メ云々」トアルニ依レハ善一郎ノ自記ニアラサル乙欄ノ部分ヲ善一郎カ自カラ記載シタル旨ヲ認メタルモノトシ之ヲ認定ノ基礎トセラレタルモノ、如シ去レハ架空ノ證據ニ依リ理由ヲ附セラレタルモノニシテ是亦理由不備ナリト云フニアレトモ○前段ハ原判文ニ「第六號證據物ナル送達書ヲ見ルニ被告善一郎カ代筆シ遣ハシタリト前示ノ如ク認ムル下欄ノ文字ト上欄云々トアル文字ハ皆同一筆跡云々」トアル其下欄ノ文字トハ即其下欄内ニ「本人不在ニ付同人母ニ向テ受取方及ヒ代印ヲ請求シタルモ應セサルニ付持歸リ助役ニ渡シタリ」トアル文字ヲ指シタルコト判文上自カラ明カナルヲ以テ上欄ノ手蹟ト對照シタル下欄ノ部分ヲ明示セサルモノト云フヲ得ス又後段ノ趣旨ハ第二點ノ趣旨ト結局同一ナルヲ以テ其理由ナキコトハ右ニ對スル説明ニテ了解スヘシ

同辯明書第五點ハ被告善一郎榮次郎ニ對シ原判決ハ公印盜用ノ法條ヲ適用シ刑法第二百七條ニ因リ監視ニ付セラレタリ然ルニ事實ノ部分ヲ見ルニ公文書偽造ニ付テハ通謀ノ事實アリタリト認メラレタルモ此兩人カ村役場印及助役ノ職印ヲ盜捺シタル行爲モ亦共謀ナルヤ否ヤニ付テ事實ノ理由ヲ明示セラレサレハ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ「同月二十三日頃被告榮次郎善一郎ト共ニ云々送達書ヲ偽造シテ村役場ニ備付ケ置カンコトヲ通謀シ云々送達書ヲ偽造シ其茂郷ノ名下ニハ茂郷ノ管掌ニ係ル助役ノ職印ヲ尙右送達書ノ上部ニハ茂郷ノ管掌ニ係ル奥田村役場印ヲ何レモ茂郷押捺シ之ヲ該村役場ニ備付ケ云々」ト判示シアリテ獨リ文書ノ偽造ノミナラス其偽造ヲ完成セシムル公印盜用モ總テ通謀シタルモノト認メタルヤ明カナルニヨリ論旨ハ理由ナシ

被告善一郎上告趣意擴張書ノ第一點ハ本案督促令狀ノ送達書ノ下段事由ノ前欄（本人不在ニ付同人母ニ向テ代印方請求シタルモ不應）ハ被告善一郎ニ於テ筆記セシコトヲ認メ居ルモ其末欄及上段ノ筆記ニ至ル迄モ被告善一郎ノ自記セシモノト認定シアルモ被告善一郎カ筆記セシ他ノ書類ト對照スルモ善一郎ノ筆記ニアラサルコト明カナリト云フニ在レトモ○是唯原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ判斷ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス

同第二點ハ要スルニ原判決ハ被告茂郷ノ村役場印及助役ノ職印盜用ノ所爲ニ對シ刑法第九十七條第一項第二項第九十五條ヲ適用シアルモ被告善一郎榮次郎ノ同罪ニ對シ第九十五條ノ適用ナキハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告茂郷ハ監守者自カラ犯シタルモノナルコヨリ偽造ノ刑ニ同シキヲ以テ刑法第九十五條ヲ適用シタルモ被告善一郎榮次郎ハ共ニ監守者ニアラサルヲ以テ同條ヲ適用セザリ



シモノナレハ更ニ不法アルコトナシ  
 被告三名辯護人鳩山和夫外二名上告趣意擴張書ノ第一點ハ原判決ハ「而シテ送達書ノ偽造ハ議會開會ノ當時即明治三十三年三月二十二日頃事情切迫ノ際之ヲ實行シタルモノニシテ該書ノ日附三月十六日トナルハ日附ヲ溯ラシ差押迄猶豫アル如ク假裝シ置キタルモノト認ム又送達書ノ上欄中上部ニ押捺シアル奥田村役場印及同村長代理助役赤祖父茂郷名下ニ押捺シアル同村助役ノ職印ハ被告茂郷ノ管理ニ係ル印判ナレハ之ヲ同人ノ盜捺シタルモノト認ムヘク」ト事實ヲ認定セラレタリ然レトモ以上ノ事實ハ如何ナル證據ニヨリテ之ヲ認メラレタルヤ毫モ其證據ヲ示ササレハ不當ノ事實ヲ確定シ理由ニ不備アル不法ノ判決ト云ハサルヲ得ス且其盜印ノ事實ヲ認ムルニ當リ茂郷名下ニ押捺シアル同村役場ノ職印ハ茂郷ノ管掌ニ係ル印判ナレハ之ヲ同人ノ盜捺シタルモノト認ムト説明セラレタルハ適正ナル證據ニ依ラス一ノ假裝ヲ以テ判決材料ニ供セラレタルモノニシテ證據法ノ原則ニ背馳セル不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○原判文中「送達書ノ偽造ハ議會開會ノ當時云々該書ノ日附三月十六日トアルハ日附ヲ溯ラシ差押迄猶豫アル如ク假裝シ置キタルモノト認ム」トアル原判決事實ノ部ニ於テ偽造送達書ノ日附ヲ三月十六日ト認メタルニヨリ其之ヲ認メタル理由ヲ説明シタルモノナリ又原判文中「送達書ノ上欄中上部ニ押捺シアル奥田村役場印及同村長代理助役赤祖父茂郷名下ニ押捺シアル同村助役ノ職印ハ被告茂郷ノ管理ニ係ル印判ナレハ同人ノ盜捺シタルモノト認ム可ク」トアルハ原判決事實ノ部ニ

於テ奥田村役場印及助役ノ職印ハ何レモ茂郷ニ於テ押捺シタリト認メタルニ依リ其之ヲ認メタル理由ヲ説明シタルモノナリ而シテ其説明シタル理由ノ理由ニ至リテハ之ヲ判文ニ明示スルノ要ナキヲ以テ論旨ハ上告ノ理由トナラス

同第二點ハ豫審ノ訊問調書ハ豫審判事之ヲ被告人ニ讀聞セ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘキモノニシテ其手續キノ一ヲ缺クトキニ於テハ其訊問調書ノ無効ナルコトハ刑事訴訟法ノ規定スル所ナリ然ルニ原判決カ證據トシテ援用セラル被告深川榮次郎ノ第一回豫審訊問調書ハ同人ノ署名アレトモ全ク其捺印ナシ且ツ其捺印スル能ハサル旨ノ附記ナキ無効ノ調書ニシテ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法改正第二十一條ノ第二ニ依レハ官吏公吏ニアラサルモノ、署名捺印スヘキ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲スヲ以テ足り別ニ附記ヲ要セサルニ依リ長シヤ被告榮次郎ノ豫審調書ニ捺印ナク又附記ナシト雖モ之ヲ無効ト云フヲ得ス

被告善一郎榮次郎辯護人磯部四郎上告趣意擴張書ノ第一點ハ原判決法律適用ノ部ニ於テ云々茂郷ハ其管掌ニ係ル文書ヲ偽造行使シタルモノナルヲ以テ同法第二百五條ニ依リ一等ヲ加フヘク村役場印及助役ノ職印ヲ盜用シタル所爲ハ各明治二十三年法律第百號刑法第百九十七條第一項ニ依リ同法第百九十五條ノ刑ニ當ル公文書ヲ偽造スルニ依リテ公印ヲ盜用シタルモノナレハ同法第二百六條ニ依リ村役場



印ヲ盗用シタル所爲ヲ重シトシ之ヲ論シ云々トアリ然レトモ重罪ニ於テ刑ノ長短アルトキハ其刑期ノ長キモノヲ以テ重シトシ之ヲ論スヘキモノナルコトハ同法第百條第二項ノ規定スル所ナリ去レハ本件ニ關シ其管掌ニ係ル公文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ同法第二百五條ニ依リ重懲役ノ刑ニ當リ其公印ヲ盗用シタル所爲ハ同法第百九十七條ニ依リ輕懲役ニ當ルモノナレハ同法第二百六條ニ依リ其管掌ニ係ル公文書ヲ偽造シタル所爲ヲ重シトシ論スヘキモノナルニモ拘ハラス原院ハ役場印ヲ盗用シタル所爲ヲ重シトシ論シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ

○原判決法律適用ノ部ヲ閱スルニ「村役場印及助役ノ職印ヲ盗用シタル所爲ハ各明治二十三年法律第百號刑法第百九十七條第一項ニ當ル處茂郷ハ監守者自カラ犯シタルモノニ付同法第百九十七條第二項ニ依リ同法第百九十五條ノ刑ニ當ル」トアルニ依リ是亦重懲役ノ刑ニ當リ論旨ノ如キ刑ノ長短アルコトナシ畢竟本論旨ハ原判文中ニ記載シタル「茂郷ハ監守者自カラ犯シタルモノニ付同法第百九十七條第二項ニ依リ同法第百九十五條ノ刑ニ當ル」ノ一句ヲ看過シタルニ外ナラサルモノトス

同第二點ハ原判決理由中云々は等ヲ參酌セハ奥田村役場ニ於テ助役タル被告茂郷ノ指圖ニ依リ被告善一郎ハ第六號ナル送達書ヲ認メ被告榮次郎善一郎下欄ニ使丁トシテ署名捺印シ共ニ送達書ヲ偽造シタルコト明カニシテ云々トアリ即チ被告榮次郎善一郎ハ送達書偽造ノ所爲ニ加効シタリ故ニ之ヲ處罰スト云フノ判示ナレトモ前顯ノ如ク被告茂郷ノ指圖ニ依リトアルヲ見レハ例令共謀加効ノ事實アリトスルモ

之レ本屬長官ノ命令ニ出テタルモノナレハ刑法第七十六條ノ規定ニ依リ無罪タラサルヘカラス若シ反之茂郷ノ指圖云々ハ敢テ命令シタルモノニアラス任意共謀ニ出テタリトセハ其理由ヲ附セサルヘカラス然ルニ原判決茲ニ出テサリシハ理由齟齬ノ違法アリト云フニ在レトモ

○被告善一郎榮次郎カ茂郷ト共謀シテ本件ノ罪ヲ犯シタルモノナルコトハ原判文中同月二十二三日頃被告榮次郎善一郎ト共ニ云々送達書ヲ偽造シテ村役場ニ備付ケ置カンコトヲ通謀シ云々ト認メアルニヨリテ明カナリ而シテ此事實ハ諸種ノ證據ヲ參酌シテ認メタル理由ヲ原判文ニ説明シアルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十二月十一日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○私印盗用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十三年第一四五三號  
明治三十三年十二月十三日宣告

○判決要旨

既ニ公訴ノ提起アリタル事件ニ對シ更ニ公訴ヲ提起シタルトキハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス



第一審 福島地方裁判所若松支部

第二審 宮城控訴院

公訴私訴上告人 江花正孝

外五名

私訴被上告人 上野萬太郎

右正孝外五名ニ對スル私印盗用私書偽造行使詐欺取財事件ノ控訴ニ付明治三十三年十月二十日宮城控訴院ニ於テ原判決中後段棄却ヲ言渡シタル部分ノ外總テ之ヲ取消ス被告正孝ヲ重禁錮一年罰金十五圓監視六月ニ處シ彌壽平保博峯吉忠平源齋ヲ各重禁錮六月罰金八圓監視六月ニ處ス公第五八五號件中正孝保博彌壽平峯吉忠平ニ對スル豫第一號證ノ三ノ委任狀及ヒ豫第三號證ノ十一ト同文ノ地所賣渡契約證及正孝ヨリ萬太郎ニ差入レアリシ債務證書ヲ萬太郎ヨリ騙取シタリトノ公訴ハ之ヲ受理セス被告正孝、保博、彌壽平、峯吉、忠平カ豫第一號證ノ五並ニ豫第六號證中ノ委任狀及檢第一號證檢第二號證檢第三號證檢第四號證ヲ騙取シタリトノ點ニ關スル檢事ノ控訴ハ之ヲ棄却ス押收書類中豫第三號證ノ十二ハ上野萬太郎ニ其他ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ正孝、保博、峯吉ハ其全部彌壽平、忠平、源齋ハ其半分ニ付各連帶負擔スヘシ被告正孝ハ豫第六號證彌壽平ハ檢第四號證ノ無效ヲ確認スヘシ私訴總費用ハ被告正孝、彌壽平ニ於テ各其五分ノ一ヲ負擔シ其餘ハ民事原告人ノ負擔トスト言渡タル判決ニ對シ原院檢事長川目亨一及ヒ被告峯吉、忠平、源齋ハ公訴ニ付被告正孝、彌壽平ハ公私訴共上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

檢事長上告趣意書ノ要旨第一ハ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件ハ少クモ三個ノ犯罪行為アルモノナリ而シテ其ノ之レアルコトハ原判決ニ段落ヲ切リテ第一第二ト區分ヲ立テ且ツ犯罪實行中ニ於テ或ハ「云々奇貨トシテ云々金圓ヲ騙取セント欲シ」等ノ新犯意發生ヲ表示スヘキ文詞ヲ掲ケタルニ依リ明カナリ然ルニ原院ハ事實理由ノ末段並法律理由中ニ意思繼續云々ト説明シ且ツ數多ノ證書騙取罪アルコトヲ認メナカラ數罪俱發例ヲ適用セサルハ前後ノ理由矛盾スル甚シキモノト云ハサルヲ得ヌ要スルニ本件ノ如キハ各犯罪ノ日時場所方法分量等精細ニ區分シ得ヘク否區分セサルニ於テハ却テ事實ヲ曖昧ナラシメサルヲ得サル程ニ其事實分明ナルヲ以テ原判決ハ之ヲ區分シ其事實ヲ認メナカラ末段ニ至リ本件ヲ犯意ニ依レル一ノ繼續犯ト爲シ法律適用ヲ疎略ニ付シタルハ失當タルヲ免レス又本件ニシテ繼續犯ナランカ原判決カ事實ノ部ニ之ヲ即時犯トシテ説明シタルハ失當ナリ若シ又之ヲ即時犯トセシカ末段及ヒ法律ノ部ニ之ヲ繼續犯トシテ説明シタルハ違法タルヲ免レス原判決ハ到底此過失ノ一ニ座セサルヲ得サル不法ノ裁判ナリト云ハサルヘカラス又原判決法律ノ理由説明中「別個ノ一罪トシテ論スルノ限リニ在ラス云々」トアルヲ以テ見レハ此文詞ノ指稱シタル以外ノ各事實ハ別個ノ犯罪トシテ論スヘキモノナリトノ意義ヲ有スルモノト解釋セサルヘカラス故ニ「檢第一二號豫第三號證ノ十二豫第一號證ノ五豫第六號證中ノ委任狀ヲ騙取シタル所爲ハ別個ノ犯罪ヲ爲スモノナリ殊ニ右等ノ物件ニ對シテハ事實ノ部ニ騙取ナル文詞ヲ用ヒ且ツ法律適用上理由ヲモ説明シ別個ノ一罪別罪等ノ文詞ヲ



用ヒタルニ依テ見レハ原判決ハ本件ニ於テ五個ノ別罪アルコトヲ認メタルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ前陳ノ如ク原判決ハ他ノ部分ニ於テ本件ハ繼續シタル一ノ犯罪ナリト認メ數罪俱發ノ例ヲモ用ヒス一ノ犯罪ナリト認メタルヲ相當トセハ五個ノ別罪アリト爲スカ如キ説明ハ失當タルヲ免レス又別罪ヲ爲スト認メタルカ相當ナレハ一ノ犯罪ナリトシタルハ違法タルヲ免レス要スルニ原判決ハ其理由ニ翻蹻アル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件ハ被告正孝ニ於テ上野萬太郎ヨリ金圓又ハ證書ヲ騙取セントコトヲ企テ被告保博、峯吉、彌壽平、忠平、源齋等ト共謀ノ上被告正孝ノ所有ニ係ル極メテ低價ノ瘠地ヲ上等ノ畑地ナリト詐リ巧ニ萬太郎ヲ欺キ種々ノ手段ヲ以テ數通ノ證書ヲ騙取シタルモノニシテ表面上數個ノ所爲アリト雖モ其實萬太郎ヨリ金圓又ハ證書ヲ騙取セント欲シタル同一意思ノ實行ニ外ナラサレハ縱シ原判決ニ第一第二段落ヲ切り又ハ「云々ヲ奇貨トシテ云々金圓ヲ騙取セント欲シ」等ノ文詞ヲ用ヒタリト雖モ數罪俱發ヲ認メタリトハ云ヒ難キヲ以テ原院カ事實理由ノ末段並ニ法律ノ理由中意思繼續云々ト説明シ之ヲ一ノ繼續犯ナリト認メ數罪俱發例ヲ適用セサルハ不當ニアラス又檢第一二號證據第三號證ノ十二豫第一號證ノ五豫第六號證中ノ委任狀ヲ騙取シタルハ他ノ犯罪ノ結果ニアラスシテ犯罪行爲ナリト雖モ前掲説明ノ如ク右ハ總テ一ノ意思ヨリ生シタル犯罪行爲ナルヲ以テ原院カ之ヲ數罪トセス意思繼續ノ一罪ト認メタルハ違法ニアラス

第二ハ公第五八五號事件ノ起訴即チ明治三十三年三月二十三日附若松支部檢事ノ豫審請求書ニ記載シ

タル事實ハ公第五五三號事件ノ起訴即チ明治三十二年七月三日附若松支部檢事ノ豫審請求書ニハ包含セラレサリシコトハ豫審判事カ之ヲ公判ニ付シタル事跡ナク又第一審裁判所モ其公訴ヲ受理シタルコトナキニ依リ明カナリ故ニ檢事カ本年三月二十三日其公訴ヲ提起シタルニ原院ハ繼續シタル一罪ト做シ第一ノ起訴ニ包含セラレタルモノトシ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリ假リニ繼續シタル一罪ナリトスルモ公訴不受理ノ裁判ハ公訴ノ方式カ法律ノ規定ニ背キ無効タル場合ニ言渡スヘキモノニシテ本件ノ如キ場合ニ之ヲ言渡スヘキモノニアラス抑モ本件第二ノ起訴ハ豫審判事モ第一審裁判所モ審判ヲ爲サ、リシヲ以テ之ヲ爲シタルモノニシテ毫モ失當ノ廉ナク原院モ之レカ判決ヲ與フルニ差支ナキニ拘ハラス公訴不受理ヲ言渡シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在レトモ○公第五五三號事件ノ起訴即チ明治三十二年七月三日付若松支部檢事ノ豫審請求書ハ元來明治三十二年六月十九日付告訴人上野萬太郎代理人柴田泰之助提出ノ告訴狀ニ掲ケタル事實ニ對シ豫審ヲ求メタルモノニシテ該告訴狀ニハ原判決ノ認メタル事實ニ關スルコトハ總テ包含シアリテ其事實ノ起訴セラレタルコトハ疑ナ容ルヘカラス然ルニ其事實中被告等カ豫第三號證ノ十一ト同文ナル契約證據第一號證ノ五之レニ基キタル委任狀正孝ノ負債證書豫第一號證ノ五ニ基キタル千六百圓ノ公正證書檢第一號證乃至第四號證等ヲ萬太郎ヨリ騙取シタル點ニ對シ若松支部檢事ハ明治三十三年三月二十三日ニ至リ更ニ豫審ヲ請求シタルモノニシテ公第五五三號事件ト同一ノ事件ナルヲ以テ原院カ之レニ對シ公訴不受理ノ



裁判ヲ爲シタルハ不當ニアラス何トナレハ一事件ニ付已ニ公訴ヲ提起シタル以上ハ其公訴ニ於テ相當ノ裁判ヲ與フルハ勿論ナルヲ以テ同一事件ニ付更ニ公訴ヲ提起スルノ必要ナキノミナラス同一ノ被告人ニ對シ同一事件ニ付再ヒ公訴ヲ提起スルハ一ノ犯罪ニ對シ二重ニ刑ノ適用ヲ求ムルモノナレハ其不法タルヤ論ヲ俟タサルノミナラス公訴不受理ノ裁判ハ公訴ノ方式カ法律ノ規定ニ背キ無効タル場合ニハミ限リ言渡スヘキモノニアラスシテ本件ノ如ク一事件ニ付重ネテ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ之ヲ言渡シ得ヘキハ勿論ナルヲ以テナリ

第三ノ(一)ハ檢第三四號證ハ檢第一二號證ノ結果ナルカ如シト雖モ其實必然ノ結果ニアラス何トナレハ違約スルトキハ賠償金ヲ出スヘキ旨ヲ約スト雖モ後日違約ナル一新事實ヲ生セサルニ於テハ必スシモ賠償金ヲ出スニ及ハサレハナリ故ニ檢第三四號證ヲ騙取シタルハ別罪トシテ論スヘキモノナルニ原院カ別罪トシテ論スルノ限リニアラスト判定シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ檢第一號證ハ萬太郎ヨリ地所ヲ彌壽平ニ賣渡スノ手續ヲ爲スコト及ヒ異變アルトキハ違約損害トシテ代金ノ一割ヲ差出スヘキコトヲ約定シタルモノ檢第二號證ハ手附金ヲ受取リ前記約定ヲ繼續シ更ニ責務ニ當ルヘキコトヲ約定シタルモノ又檢第三號證ハ賣買手續ヲ爲スニ付テノ猶豫ヲ請ヒ若シ其日限ニ違約スルトキハ代金ノ一割及ヒ前ニ受取リタル手附金ヲ返戻スヘキコトヲ約定シタルモノ檢第四號證ハ萬太郎ヨリ違約ノ結果金二百三十五圓ヲ賠償スルコトナリ手附金等ヲ合セテ金四

百三十五圓ヲ借用スル旨ノ公正證書ニシテ檢第三四號證ハ檢第一二號證ヲ騙取シタル以上ハ其結果トシテ受取ルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ原院カ檢第三四號證ヲ騙取シタル點ハ畢竟檢第一二號證ヲ騙取シタル結果ニ過キスト説明シタルハ違法ニアラス(二)ハ豫第一號證ノ五ノ約定豫第六號證中ノ委任狀豫第六號證ノ公正證書ハ其目的效用ヲ異ニスルヲ以テ豫第六號證ハ豫第一號證ノ五及豫第六號證中ノ委任狀ノ結果ナリト云フヲ得ス即チ別個ノ犯罪ヲ爲スモノナリ然ルニ原院カ豫第一號證ノ五及ヒ委任狀ヲ騙取シタル結果ナルヲ以テ別罪ヲ成スヘキモノニアラサル旨判示シタルハ擬律ノ錯誤ナリ又被告人カ萬太郎ヨリ委任狀ヲ騙取シ其委任狀ヲ以テ豫第六號證ノ金圓借用ノ公正證書ヲ作り因テ強制執行ヲ爲シタルハ即チ豫第六號證ヲ偽造行使シタルモノナリ(明治三十二年第八五八號判決例參照)然ルニ原院カ此事實ヲ認メナカラ之ヲ不問ニ付シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ豫第一號證ノ五ハ萬太郎ニ於テ正孝ニ對シ賣買代金ノ殘額千六百圓ヲ借用スル旨ノ公正證書ヲ作成スルコトヲ約定シタルモノ豫第六號證中ノ委任狀ハ前記公正證書ヲ作成スルコトヲ萬太郎カ忠平ニ委任シタルモノ又豫第六號證ハ前記契約委任狀等ニ基キ作成シタル金千六百圓借用ノ公正證書ニシテ豫第一號證ノ五並ニ豫第六號證中ノ委任狀ヲ騙取シタル以上ハ豫第六號證ハ其結果トシテ當然作成セラルヘキモノナルヲ以テ原院カ豫第六號證ハ豫第一號證ノ五及豫第六號證中ノ委任狀ヲ騙取シタルノ結果ニ過キサルヲ以テ云々ト説示シタルハ違法ニアラス而シテ其結果タル以上ハ之ヲ行使



シタリトスルモ文書偽造罪ニ問擬スヘキモノニアラサルヲ以テ原院カ之ヲ不問ニ付シタルハ違法ニアラス(三)ハ本件ノ事實ハ被告人カ萬太郎ヲ欺キ低價ノ地ヲ數倍ノ高價ニ賣付ケ以テ不正ノ利ヲ得ントノ目的ニ出テタルモノナレハ萬太郎ヨリ地所買受ケニ關スル委任狀ヲ騙取シタル以上ハ被告人ハ其目的ヲ達シタルモノニシテ其後豫第一號證ノ五ノ約定證豫第六號證中ノ委任狀正孝ノ負債證書三通ヲ騙取シタルハ萬太郎ノ地所買入代金ノ取引ヲ實行シタルニ外ナラサルヲ以テ委任狀騙取ノ結果ナリト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ檢第三四號證ヲ騙取シタルハ他ノ所爲ノ結果トシナカラ右三個ノ所爲ヲ別罪ヲ成スモノトシタルハ彼此其理由一貫セス別罪トシテ論スヘキモノナレハ其理由ヲ説明セサルヘカラサルニ之ヲ説明セサルハ理由ノ不備ナリ若シ又委任狀騙取ノ結果ナリトセハ別罪トシタルハ擬律ノ錯誤ナリ若シ又被告人ノ意思カ萬太郎ヲシテ一時假リニ買主名義ヲ出スコトヲ承諾セシムルニ在リトセハ委任狀ヲ取りタルハ騙取罪ヲ構成セス何トナレハ之ヲ以テ萬太郎ヲ害スルノ意思ナケレハナリ故ニ原院カ其事實ヲ此ノ如ク認メタルモノナレハ騙取罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ豫第一號證ノ五ハ萬太郎ニ於テ正孝ニ對シ賣買代金ノ殘額千六百圓ヲ借用スル旨ノ公正證書ヲ作成スルコトヲ約定シタルモノ豫第六號證中ノ委任狀ハ前記公正證書ヲ作成スルコトヲ萬太郎カ忠平ニ委任シタルモノ又地所買入ニ關スル委任狀ハ上野萬太郎ニ於テ正孝ヨリ買受ケタル地所ノ登記ヲ爲スコトヲ兼示萬太郎ニ委任シタルモノニシテ豫第一號證ノ五及ヒ豫第六號

證中ノ委任狀ハ買入地所登記ノ委任狀ヲ騙取シタル以上ハ其結果トシテ當然受取ルコトヲ得ヘキモノニアラス而シテ其結果ニアラスシテ犯罪行爲タルコトハ原判文上自ラ明ラカナレハ特ニ犯罪行爲タルノ理由ヲ付セサルモ理由不備ト云フヲ得ス後段ノ論旨ハ原院ノ認メサル事實ヲ掲ケテ原判決ヲ攻撃スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

正孝、峯吉、忠平、源齋、各上告趣意書ハ原院カ無罪ヲ言渡シタル第一審判決ヲ取消シ更ニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ事實ヲ不當ニ認定シ不當ニ法則ヲ適用シタルモノナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

彌壽平ノ上告趣意書ハ原判決ハ事實ノ眞想ニ據ラス現存シタル證據ニ背馳シ且ツ架空ニ事實ヲ認定シテ被告ヲ有罪トシ又民事原告人ノ請求ニ應スヘシト判決シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ其判文ニ列舉シタル諸般ノ證據ニ依リ事實ノ認定ヲ爲シタルモノニシテ架空ニ事實ヲ認定シタルモノニアラス他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

同擴張書ノ要旨第一ハ被告ハ明治三十二年六月十九日正孝ト共謀シ私印盜用私書偽造行使詐欺取財罪アリトシテ告訴セラレ此事實ニ付若松支部檢事ヨリ起訴セラレタル末若松支部ノ輕罪公判ニ付セラレタルモ同支部ニ於テ證據不十分ノ判決ヲ言渡サレタリ然ルニ檢事ハ此判決ヲ不當トシ控訴ヲ爲シナカ



ラ尙又明治三十三年三月二十六日被告ニ正孝ト共謀ノ所爲アリトシテ同一事件(檢第一號乃至第四號證ノ騙取)ニ對シ再ヒ豫審ヲ請求セリ然ルニ豫審判事ハ第一審ニテ無罪ノ言渡アリタル事件ナルニモ拘ハラス若松支部ノ輕罪公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタルヲ以テ若松支部ハ明治三十三年八月六日證憑不十分ノ廉ハ無罪トシ第一審判決ヲ經タル廉ハ公訴不受理ノ裁判ヲ爲シタリ是レ誠ニ適法ノ判決ナリニ檢事ハ之レニ對シ控訴ヲ爲シ原院ハ前後ノ控訴ヲ併合シテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ一事再理ノ不法アル裁判ナリトス且ツ主文ニ於テ檢第一號第二號ニ關スル檢事ノ控訴ヲ棄却スル旨判示シナカラ理由ノ部ニ於テ之ヲ騙取シタル旨説明シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

○原判文ヲ閱スルニ明治三十三年三月二十三日若松支部檢事カ豫審ヲ求メタル點ニ付テハ原院ハ總テ公訴ヲ受理スヘカラサルモノト認メ第一審裁判所カ公訴不受理ヲ言渡タル點ニ對シテハ第一審判決ヲ是認シテ檢事ノ控訴ヲ棄却シ又第一審裁判所カ無罪ヲ言渡シタル點ニ對シテハ第一審判決ヲ取消シ更ニ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタルモノナリ而シテ原院カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ明治三十二年七月三日ノ檢事ノ公訴ニ基キ之ヲ爲シタルモノナレハ前段ノ論旨ハ其謂ハレナク又原院カ檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ第一審裁判所カ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタル點ニ對スル檢事ノ控訴ヲ棄却シタルモノニシテ檢第一二號證ニ關スル被告ノ所爲ヲ有罪トシタルハ前記説明ノ如ク明治三十二年七月三日ノ檢事ノ公訴ニ基キ之ヲ爲シタルモノナレハ後段ノ論旨モ亦其謂ハレナシ

『第二ハ何等ノ證憑ナキニ被告カ萬太郎ノ履行シ能ハサルコトヲ前知シ

ナカラ買賣契約ヲ取結ハシメ違約ヲ原因トシ大金ヲ騙取セシコトヲ正孝ト共謀シタリト認定シタルハ不法ナリト云ヒ第三ハ原判決ニ被告カ檢第一二號證ヲ騙取シタルモノ、如ク判決シ又違約ヲ原因トシ大金ヲ出サシメント欲シタル假裝ノ契約ナリト横斷シタルハ何レモ架空ニ事實ヲ認定シタルモノナリト云フニ在レトモ

○原院ハ其判文ニ列舉シタル諸般ノ證憑ヲ綜合シテ其事實ヲ認メタルモノニシテ毫モ不法ノ廉アルコトナシ畢竟右論旨ハ何レモ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

『第四ハ原判文ニ被告カ延期ヲ承諾シ延期證檢第三號證ヲ受取りタリト説明シナカラ必然ナル違約ヲ原因トシ大金ヲ騙取セント認定シタルハ前後理由ニ齟齬アルモノナリ何トナレハ違約ヲ原因トシ金圓ヲ騙取セント欲スルモノナレハ延期ヲ承諾スヘキ謂ハレナク延期ヲ承諾シタル以上ハ違約云々ノ事實ナキハ當然ナレハナリ又眞ニ違約ヲ原因トシ大金ヲ得ント欲セシモノナレハ代金ノ一割ニモ達セサル二百二十五圓ニテ承諾スルノ理由ナク右金額ニテ承諾シタルヲ見レハ違約ヲ原因トシ云々ノ事實ナキコトハ明カナレハ原判決ハ理由齟齬ノ裁判ナリト云フニ在レトモ

○一時延期ヲ承諾シタリト雖モ違約ヲ原因トシテ金圓ヲ騙取スルノ意ナシト云フヲ得ス又違約ヲ原因トシテ金圓ヲ騙取スルノ意アル以上ハ延期ヲ承諾スヘキ筈ナシトノ理由ハ更ニ之レナク又大金ヲ騙取セント欲シタリト雖モ實際大金ヲ得ル能ハサルコトナシト云フヲ得サルヲ以テ原判文ニ縱シ所論ノ如キ説明アリトスルモ理由齟齬ノ裁判ナリト云フヲ得ス

『第五ハ原判文前段ニハ正孝カ所有スルト稱シ



タル地所カ虚無ナルカ爲メ違約ニ至リタルモノト判示シナカラ其後段ニ萬太郎カ被告ノ舉措ニ不審アルニヨリ賣買契約ヲ解除スルニ若カスト思料シ云々ト説明シタルハ理由齟齬ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ原判文ニハ「正孝カ所有スト稱セシ地所カ全ク虚無ナルカ爲メ約定ノ如ク其手續ヲ爲シ能ハサリシヲ以テ云々延期ヲ請ヒシニ彌壽平ハ之ヲ承諾シ云々」トアルノミニシテ「違約云々」ト判示シタル事跡ナケレハ本論旨ハ其謂ハレナシ」第六ハ原院カ被告ハ其買受ケントスル地所ハ自町ノ附近ニアルモノナレハ云々等ノコトヲ綜合シ地所ヲ買取ルノ意思ナク違約ヲ目的ト爲シタルモノナリト認定シ又正孝ト共謀ナリトシタルハ想像ヲ以テ事實ヲ不當ニ認定シタルモノナリト云フニ在レトモ○原院ハ證據ニ依リ事實ノ認定ヲ爲シタルモノニシテ不當ニ事實ヲ認定シタルモノニアラス畢竟本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ論難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス」第七ハ原判決私訴ニ關スル理由ニ「檢第四號證ノ金額中ニ包含セラル、コトハ萬太郎ノ豫審調書中其旨ノ記載アルニ因リ明カナリサレハ本件ノ金額ハ彌壽平等ニ詐取セラレタル金額ニ非スシテ自己ノ當然返辨スヘキ金額ト認メ得ヘキニ因リ之ヲ取戻サントルハ其當ヲ得サルモノトス」ト説明シナカラ主文ニ於テ「檢第四號證ノ無效ヲ確認スヘシ」ト判決シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ理由ニ「檢第四號證ノ金額中ニ包含セラル、コトハ云々」トアルハ主文ニ於テ民事原告人ノ請求ヲ却下シタル裁判ノ説明ニシテ檢第四號證ノ無效ヲ確認スヘシトノ裁判ニ對シテハ「彌壽平カ民

事原告人ヲ欺罔シ檢第一二號證ヲ騙取シタル結果檢第四號證ノ成立セシコトハ公訴判決ノ部ニ記載シタル理由ノ如シ故ニ云々」ト説示シアレハ本論旨ハ其謂ハレナシ  
源齋ノ上告趣意擴張書ノ要旨第一ハ原院ハ被告カ證書ヲ騙取シタル事實ト萬太郎ニ違約セシメ其損害トシテ金六十二圓ヲ騙取セントシ其目的ヲ遂ケサリシ事實トヲ認メナカラ法律適用ノ部ニ於テ證書騙取ノ點ニ對シ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條第百四條ヲ適用シタルノミニシテ金圓騙取未遂ノ點ニ對シ何等ノ法條ヲ適用セサルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告カ騙取シタル念書ト題スル證書ハ萬太郎カ忠平ニ地所賣渡ノ委任ヲ爲シ此地所ニ付故障ヲ生スルコトアルモ損害ヲ掛ケサル旨ヲ約シタルモノニシテ忠平ハ之レニ基キ萬太郎ノ代人トシテ源齋ニ地所ヲ賣渡シ違約スルトキハ相當ノ損害ヲ賠償スヘキ旨ノ契約證書ヲ作り其後萬太郎ニ對シ違約シタリト稱シ金六十二圓ノ賠償ヲ請求シタリトノ事實ニシテ金六十二圓ヲ請求シタルハ念書ト題スル證書ヲ騙取シタルヨリ生シタル結果ニ外ナラサルヲ以テ其罪トナラサルコトハ自ラ明カナレハ原院カ之ヲ詐欺取財未遂罪ニ問擬セサルハ相當ニシテ違法ニアラス」第二ハ被告ハ眞實萬太郎ヨリ地所ヲ買入レントシタルモノニシテ正孝ニ詐欺ノ行爲アリシカ如キハ被告ノ預リ知ラサル所ナリトス然ルニ原院カ被告ニ詐欺取財罪アリト断定シタルハ存在セサル證據ヲ以テ架空ニ事實ヲ認定シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ現存シタル證據ニ依リ被告ニ詐欺取財罪アリト認定シタルモノナルコトハ原判



文及ヒ訴訟記録ニ徴シ判明ナレハ本論旨ハ其謂ハレナシ

忠平上告趣意擴張書ノ要旨第一ハ被告カ原判決第一ノ犯罪事實ニ關係ナキコトハ一件記録ニ徴シ明カナルノミナラス原判文ニモ證憑不十分ナリト説示シナカラ原院カ第一第二ノ所爲ハ共ニ繼續ノ一犯罪ニ過キササルヲ以テ云々ト説明シ被告カ第一ノ所爲ニ關係シタルモノ、如ク認メタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ「以上正孝、保博、峯吉カ第一第二彌壽平カ第一忠平カ第二ノ所爲ハ總テ其意思相繼續シタルモノト認定ス」ト明記シアリテ所論ノ如キ説明ヲ付シタル事跡ナケレハ本論旨ハ其謂ハレナシ」第二ハ被告ハ本件ニ關係ナキモノナルニ原院カ告訴人萬太郎ノ片言ヲ以テ事實ヲ認定シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス」第三ハ被告ハ本件ニ關係シ何等ノ利得配當ヲ受ケタルコトナシ又記録中一モ其證左アルコトナシ然ルニ原院カ「利益ヲ得ント欲シ云々」ト認定シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原院ハ其判文ニ列舉シタル證憑ニ依リ事實ノ認定ヲ爲シタルモノニシテ毫モ不當ノ廉アルコトナシ畢竟本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス」第四ハ原判文ニハ金六十二圓ヲ請求シ其目的ヲ遂ケサリシ事實ヲ認定シナカラ詐欺取財已遂ノミヲ以テ處斷シ未遂罪ニ問擬セサルハ不法ナリ又假リニ被告カ正孝等ノ犯情ヲ知り本件ニ關係シタリトスルモ相被告ノ行爲ヲ幫助シタル從犯ニ過キササルニ原院カ正犯トシテ處斷シタルハ不當ナリ又原判文ニハ證憑トシテ被告ノ自認ヲ掲ケタルモ何時如何ナル場所ニ於テ其自認ヲ爲シタルヤチ明示セサルハ不當ナリ又原判文ニ共謀ノ事實ヲ認メタルモ一件記録中共謀ノ證憑ハ一モ之レアルコトナシ然ルニ原院カ漫然共謀ノ事實ヲ認メタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ詐欺取財已遂ノ點ノミヲ處罰シ未遂罪ニ問擬セサルハ不法ナリト論旨ノ理由ナキコトハ源齋ノ上告趣意擴張書第一點ノ説明ニ依リ了解スヘシ又原判文ニ「忠平ハ萬太郎ニ云々云々シタルコトヲ自認シ」トアル以上ハ被告カ原院ニ於テ公判開廷ノ際其自認ヲ爲シタルモノナルコト自ラ明カナレハ特ニ其日時場所等ヲ明示スルノ要ナシ又原院カ諸般ノ證憑ヲ綜合シ共謀ノ事實ヲ認メタルコトハ原判文ニ徴シ明カナレハ後段ノ論旨ハ其謂ハレナシ其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件被告ノ公私訴ノ上告並ニ原院檢事長ノ上告ハ總テ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人正孝彌壽平ニ於テ各其半額ヲ分擔ス可シ

明治三十三年十二月十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス



○建造物毀棄及器物毀棄ノ件

明治三十三年第一四五五號  
明治三十三年十二月十三日宣告

●判決要旨

共犯中其身分軍籍ニ在ルノ故ヲ以テ軍事裁判所ニ於テ被告人トナ  
リタル者ハ證人タルコトヲ得ス

第一審 札幌地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 植田重太郎 辯護人 村松山壽  
外一名

右建造物毀棄及器物毀棄被告事件ニ付明治三十三年十一月一日宮城控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ  
被告兩名ヲ各重禁錮二月罰金五圓ニ處シ押收ノ帳簿ハ差出人ニ還付スル旨ヲ言渡シタル判決ニ對シ被  
告兩名ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
辯護人村松山壽擴張第二點前段ハ原判決ハ證人萩原藤太ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證ニ供シタルモ同人ハ本  
案事件ニ付共同被告人ナルコトハ原判決ニ「其住家ヲ毀壞シタルモノハ全ク被告重太郎倉松及萩原藤  
太ナルヲ推斷スルニ十分ナリ」トアルニヨリテ之ヲ知ル可ク現ニ同人ハ右調書作成ノ當時本件ニ關シ

被告人トシテ軍法會議ニ付セラレ居タルモノナリ故ニ同人ハ相被告人ナルヲ以テ其供述ヲ以テ證言ト  
シテ斷證ニ供シタルハ失當ナリト云フニ在リ○依テ訴訟記録ヲ審査スルニ萩原藤太カ證人トシテ豫審  
廷ニ於テ陳述ヲ爲シタル明治三十二年六月十九日ニ在リテハ同人ハ既ニ本件犯罪事實ニ付キ訴追ヲ受  
ケ其身分軍籍ニ在ルヲ以テ陸軍軍事裁判所ニ於テ被告人タリ凡ソ當事者ト證人ト其人ヲ同フスルコト  
ハ事理ニ於テアリ得ヘカラサルモノナレハ被告トナリタル事件ニ付キ之ヲ證人ト爲スコトヲ得ヘカラ  
ス之ヲ法文ニ照スニ刑事訴訟法第二百二十四條第六號ニ現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ニ付曾テ訴ヲ受ケ其證  
據十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ハ之ヲ證人ト爲スコトヲ許サス既ニ免訴トナリタル後  
ト雖モ供述スヘキ事件ニ付被告人トナリタル者ハ證人タルヲ得ス況ンヤ其供述スヘキ事件ニ付現ニ被  
告人タル者ニ於テハ當事者ナレハ證人タルノ資格ナキコト瞭然ナリ一人ニシテ當事者タリ證人タルヲ  
得サル所以ハ其陳述カ公平ヲ失シ斷罪ノ資料トスルノ價値ナキヲ以テナリ然ラハ萩原藤太ハ本件被告  
ト管轄裁判所ヲ同フセサルモ事實上共犯ニシテ軍事裁判所ニ於テ被告人トナリタル以上ハ同一ノ裁判  
所ニ於テ共同被告人トナリタルト信憑力ニ關シ其供述ノ價値ニ於テ毫モ異ナル所ナク到底證人タルコ  
トヲ得サルモノナルニ原院カ其供述ヲ證言トシテ採用シタルハ失當ニシテ上告ハ其理由アルモノトス  
既ニ此點ニ付原判決ヲ破毀スヘキヲ以テ他ノ論旨ニ對シテハ説明スルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ東京控訴院ニ移送ス



明治三十三年十二月十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十三年第一五二二號  
明治三十三年十二月十三日宣告

○判決要旨

二罪併科セシ事件ニ付キ控訴セサル所爲ヲ併セテ審判シタル判決ハ不法ナリ

第一審 青森地方裁判所弘前支部

第二審 函館控訴院

被告人 今 浩之進

右浩之進ニ對スル竊盜被告事件ニ付明治三十三年十月三十一日函館控訴院ニ於テ原判決ヲ取消ス被告ヲ第一ノ犯罪ニ付キ重禁錮三月及ヒ罰金二十圓ニ第二ノ犯罪ニ付キ重禁錮九月監視十月ニ處ス現在ノ贓品ハ被害官署ニ還付ス公訴裁判費用金一圓五錢ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ原院檢事ハ右第一ニ付キ被告ハ全部ニ付キ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行

シ審判スルコト左ノ如シ

檢事上告趣意ハ原判決中被告人ヲ第一ノ犯罪ニ付キ重禁錮三月罰金二十圓ニ處ストノ部分ハ不法ニ公訴ヲ受理シタルモノナリ何トナレハ被告人カ第一審裁判所ノ闕席判決ニ對シ控訴ヲ申立テタルハ該判決中唯第二ノ犯罪事件ニノミ對スルモノナルコト控訴申立書記載ノ文旨ニ徴シ自ラ明瞭ナレハナリ即該申立書ノ要ハ今浩之進右者竊盜被告事件ニ付キ明治三十二年十二月二十六日青森地方裁判所弘前支部ニ於テ重禁錮一年監視十月ニ處ストノ闕席判決ニ對シ不服ニ付控訴ヲ爲スト云フニ在リテ同闕席判決ハ本來二個ノ犯罪事實ニ對シ各別ニ執行スヘキ二個ノ刑罰ヲ科シタルモノニ係リ而シテ被告人ノ控訴ハ右二個ノ處刑中第二者ノミニ限ラレタルモノナルコト特ニ右控訴申立書中ニ表示セシ一部ノ控訴ニ過キサルコト明カニシテ現ニ第一審裁判所檢事ハ被告ノ控訴セサル部分ヲ既ニ確定セルモノトシ刑ノ執行ヲ指揮セルモノアルコト當控訴院ニ於テ右被告ノ控訴申立書ノ文旨ヲ不當ニ擴張シ第一ノ事實ニ對シテモ亦尙控訴アリタルモノ、如ク更ニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ニ公訴ヲ受理シタル不當アルヲ免カレサルモノトスト云フニ在リ○因テ審按スルニ本件第一、第二ノ犯罪ハ二罪併科スヘキモノニ係リ而シテ被告ノ控訴申立書ヲ閱ミスルニ上告論旨ノ如ク第二犯罪事件ニ限り控訴シタルモノナルコト明白ニシテ第一犯罪事件ノ第一審判決ハ業已ニ確定シタルモノナリ然ルニ原院カ其控訴ニ係ラサル第一犯罪事件ヲ併セテ審判シタルハ不法ニシテ本論旨ハ上告適法ノ原由アルモノトス



被告上告趣意書同辯明書ハ其主旨明瞭ナラスト雖モ結局(一)本案ノ物件ハ被告カ他ヨリ買入レタルモノナルヲ以テ贓物故買ノ罪ヲ以テ處斷スルハ格別被告カ竊取シタルモノト爲シタルハ不當ナリ(二)被告ハ營林主事ニ向テ竊取シタル事實ヲ自白シタルモノニアラス然ルニ同主事ニ向テ自白シタルモノ、如ク判示シタルハ不當ナリ(三)被告ノ前科トセラレタル誣告私書偽造行使罪ニ付テハ邊ニ函館控訴院ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタルモノナリ(四)贓金ハ五圓ニ滿タサルモノナルニ重禁錮九月ノ重刑ヲ科シタルハ不當ナリ(五)原判文第一ノ犯罪事件ニ付テモ被告ハ控訴ヲ爲シタルモノナリト云フモノ、如シク因テ審按スルコ(一)事實ノ認定ヲ爲スハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ他ヨリ批難スルヲ得ス(二)原院カ採用シタル營林主事ノ聽取書ヲ閱ミスルニ判文證據ノ部ニ摘録セル如ク被告カ同主事ニ向テ犯狀ヲ自白シタル事實ノ記載シアリテ判文ト符合セリ(三)被告ノ前科ニ付テハ原院ハ同院既決犯罪表謄本ニ依テ之ヲ認メタル旨判示シアレハ其認定ニ對シ批難ヲ試ムルコトヲ得ス故ニ右論旨ハ總テ上告ノ理由トナラス(四)(五)ハ第一犯罪事件ニ關スル論旨ナレハ檢事ノ上告論旨ニ對シ説明スル如クナルヲ以テ説明ヲ要セス

右ノ理由ニ依リ原判決第二犯罪事件ニ關スル被告ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ之レヲ棄却ス第一犯罪事件ニ付檢事ノ上告論旨ニ基キ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ從ヒ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

右

今 清 之 進

原判文第一犯罪事件ノ判決ハ之ヲ破毀ス

明治三十三年十二月十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○謀殺ノ件

明治三十三年九月第一一七三號  
明治三十三年十二月十八日當審

◎判決要旨

共犯事件ノ訴訟費用ヲ以テ共犯者中ノ一名ニ全部ノ負擔ヲ命スルモ不法ナリトセス

第一審 松山地方裁判所 第二審 廣島控訴院  
被告人 石岡初五郎 外一名

右ニ對スル謀殺被告事件ニ付明治三十三年九月五日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ上告ヲ爲

共犯事件ノ訴訟費用負擔



シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

被告初五郎上告趣意ハ被告ハ石五郎ニ嘉助ノ殺害ヲ依頼シタルコトナク又殺害ノ意ナキニ有罪ノ判決アリタルハ不法ナリト云フニ在リテ

○全ク原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ止マルヲ以テ上告ノ理由ナシ

其上告趣意擴張書第一點ハ原判決ハ單ニ被告ノ自白トアリテ如何ナル書類ニ存スルカ不明ニシテ且其自白ヲ被告人ニ示シテ辯解セシメサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ

○原判決ニハ特ニ其所在ヲ示サ、ルヲ以テ原公延ニ於ケルモノナルコト明ナリ而シテ公延ニ於テセシモノナル以上ハ更ニ之ヲ示スノ要ナシ

其第二點ハ篠崎建關ノ鑑定ハ被告兩名ニ對スル必要證據ナルニ其費用ヲ被告初五郎一人ニ負擔セシメシハ失當ナリト云フニ在レトモ

○本件被告等ハ共犯ナルヲ以テ元來其訴訟費用ハ連帶負擔スヘキモノニシテ各自全部義務ヲ負フモノナレハ原院カ鑑定ノ費用ヲ被告一名ニ負擔セシムルモ之ニ對シ不服ヲ唱フヘキ謂レナシ

被告石五郎上告趣意書ハ被告カ嘉助ヲ殺害シタルハ初五郎ヨリ強迫的ノ教唆ヲ受ケタルコトニシテ決シテ心中ヨリ殺意ヲ決シタルモノニアラス云々ト云フニ在リテ

○全ク原院ノ職權ニ屬スル事實認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十二月十八日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○後備兵召集不應ノ件

明治三十三年九月二十九日  
明治三十三年十二月二十日宣告

○判決要旨

明治十三年ノ徵兵ニシテ明治二十八年ニ於テ後備役ニ在ル事由ヲ明示セス輒ク後備兵ノ召集ニ應セサル所爲アリトシテ處罰シタル判決ハ事實理由ヲ明示セサル不法アルモノトス

第一審 長野地方裁判所飯田支部  
第二審 東京控訴院  
被告人 柴 佐 吉

右後備兵召集不應事件ノ控訴ニ付明治三十三年十月十一日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ棄却シ公訴裁判費用ヲ被告ノ負擔トスル旨言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ本院檢事ハ附帶上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

事實理由ノ不備







被告兩名上告趣意書ハ原裁判所ハ被告カ犯罪事實ナキニ係ハラス刑法第三百一條第三項第三百五條ヲ適用シテ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法タルヲ免カレスト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告適法ノ理由トナラス

辯護士擴張書第一(一)ハ原院ハ事實ノ部ニ於テ「其創傷ハ被告兩名ノ中執レノ所爲ニ因リ成リタルヤ分明ナラサルモノナリ」ト云ヒ又證據ノ點ニ付テモ同様ノ認定ヲ爲シ結局刑法第三百一條第三項第三百五條ニ該當スルモノト爲シ第三百一條第三項ノ刑ニ一等ヲ減シ被告等ヲ有罪ニ處斷シタルハ違法ナリ何トナレハ該判旨ハ被告等カ犯罪ノ證據不充分ヲ意味スルコト明瞭ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ當然無罪ヲ言渡スヘキモノナレハナリト云ヒ(二)ハ原院ハ事實ノ部前段ニ於テ被告二名カ前山カク左手甲ニ天保錢大ノ紫色ヲ呈スル創傷ヲ負ハシメタルヲ認メ次ニ其創傷ハ被告等ノ内何人カ之ヲ負ハシメタルヤ分明ナラストセリ若シ此認定ノ事實ヲ正確ナリトセハ前段ハ被告等ニ罪責アルカ如ク後段ハ其罪責ナキヲ認メタル判決ニ係リ理由齟齬ノ不法アルハ勿論此曖昧ノ事實ニ對シ刑法第三百一條第三百五條ニ依リ刑ヲ言渡シタルハ罰スヘカラサルモノト認メタル行爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル不法アルヲ免カレスト云フニ在レトモ○原判決ハ被告兩名カ共ニ前山カクヲ毆打シテ云々創傷ヲ負ヒ其創傷ハ被告兩名ノ中執レノ所爲ニ因リ爲リタルヤ分明ナラサルモノナリトアリテ即チ其創傷ハ被告兩名ノ所爲ナリト認メ而シテ兩名中執レカ爲シタルヤ不分明ナリトノ理由ヲ説明シタルモノナレハ前

後ノ理由ニ齟齬アルコトナシ又犯罪ノ證據十分ナラサルモノト認メタルモノニアラス從テ右ノ事實ニ對シ刑法第三百一條第三項第三百五條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナリトス(三)ハ本件第一審裁判所ハ被告兩名カ前山カク右手背ニ天保錢大ノ紫色ヲ帶フル創傷ヲ負ハシメタルモ其創傷ハ兩人ノ中執レノナシタルモノナルヤハ之レヲ知ルコト能ハストシ尙ホ刑法第三百一條第三百五條ヲ適用シタルモノナレハ判文自身已ニ證據ニ副ハサル事實ノ認定(左手背ニ負傷セル證人小山ノ證言)ナルノミナラス罰ス可カラサル所爲ニ對スル科刑ノ不法アルヲ以テ當然之レヲ取消スヘキ筈ナルニモ拘ハラズ之レヲ認可シ負傷ノ事實ニ付不能知ヲ分明ニ改メ右手背ヲ左手背トナシ尙ホ原裁判ヲ認可シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ右手背トアルハ左手背ノ誤記ナルコトハ該判文ニ徴シテ明瞭ナリ故ニ原院ニ於テ之レヲ更正シ又不能知トアルヲ不分明ニ改メタレハトテ此等ハ其趣旨ニ於テ何等ノ異動ノ生スヘキモノニアラサルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ是認シタルハ不法ニアラス

第二ハ原判決ハ本件事實ニ對シ刑法第三百五條ヲ援用セリ然レトモ同條ノ前段ト後段ト若シ以下其規定ノ性質全ク相違セリ果シテ然ラハ其執レテ適用シタルモノナルヤハ宜シク之レヲ明示セサルヘカラズ然ルニ漠然該條ヲ適用シタルハ法律ノ適用ヲ明示セサル不法ノ判決タルヲ免カレスト云フニ在レトモ○二人共毆シテ其創傷ハ二人中何人カ爲シタルヤ知ル能ハサル事實ヲ認メ刑法第三百五條ヲ適用シタルハ即チ同條ノ後段ヲ適用シタルコト自カラ明カナルヲ以テ特ニ之レヲ示サルモ不法ト云フヲ得



第三ハ假リニ數百歩ヲ讓リ第三百五條ノ後段若シ以下ヲ適用シタルモノトセン乎原判決ハ共毆シテ創  
 ナ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサルモノト認ムルニ非スシテ創ヲ成シタルハ何人ノ所爲ナルヤ不分明ナ  
 リト認メタルモノナレハ其所爲ハ第三百五條ノ規定ニ合セサルヤ論ヲ俟タス故ニ之レヲ適用セント欲  
 セハ宜ロシク此事實ニ意味ノ異リタル法律ヲ適用スルノ相當ナル理由ヲ示サ、ル可カラズ然ルニ之レ  
 ナ缺キタルハ尙ホ理由不備若シクハ理由ニ齟齬アル違法ノ判決タルヲ免カレスト云フニ在レトモ、假  
 令其創傷ハ一个所ナリト雖モ二人以上共毆シテ其創傷ハ共犯中孰レカ爲シタルヤ知ルコト能ハサル  
 時ハ即チ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル能ハサル場合ナルヲ以テ刑法第三百五條後段ニ依リ處斷スヘキモノト  
 ス、故ニ原院カ同條ヲ適用シタルハ相當ニシテ理由不備若シクハ理由ニ齟齬アルコトナシ

第四ハ刑事訴訟法ハ上級裁判所ニ對シ下級裁判所使用文字ノ正誤ヲ爲スノ職權ヲ與ヘス隨テ斯ル場合  
 ニ於テハ事實法律共ニ其認定ヲ異ニスルカ故ニ原裁判ヲ廢棄若シクハ破毀スルノ結果ヲ生スルノミ若  
 シ上級裁判所ニ斯ル權限アリトセハ適用セラレタル法律條數ノ誤謬及事實ノ誤謬ハ常ニ下級裁判所ノ  
 使用文字ノ誤記トシテ是認セラル、ノ結果ヲ生スヘシ是豈ニ許容スヘキ解釋ナランヤ本件第一審ハ右  
 手背ニ創傷ヲ負ハシメタリトシ第二審ハ左手背トナシ結局之レヲ第一審ノ誤記トナシ其判決ノ瑕瑾ト  
 認メサルハ原院ニ於テ刑事訴訟法上許容セサル解釋ヲ採テ以テ控訴ヲ棄却シタルハ不法アルヲ免カレ

スト云フニ在レトモ、**○第一審判決**原本ヲ査スルニ右手背ニ創傷云々トアルハ左手背ノ誤記ナルコトハ  
 原判文上著名ナルヲ以テ原院カ職權ヲ以テ之レヲ誤記ト認メ誤記ハ原判決ノ瑕瑾トスルニ足ラスト説  
 明シテ以テ控訴ヲ棄却シタルハ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
 明治三十三年十二月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

**○詐欺取財ノ件** 明治三十三年七月三九號  
 明治三十三年十二月二十一日宣告

**○判決要旨**

金圓ノ騙取ト約束手形ノ騙取トハ二罪トシテ處罰スヘキモノニ非  
 ス

第一審 富山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

金圓ト約束手形ノ騙取



被告人 飯田善四郎 辯護人

外三名

佐藤和彦  
沼田源太郎  
高木益太郎  
黒須龍太郎  
林太郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十三年五月二十九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告共ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告善四郎市左衛門上告趣意ノ第一點ハ富山縣上新川郡東岩瀬町高井文治ノ發行ニ係ル倉荷證書五十枚（一枚ニ付玄米十石）ハ流通證書ニシテ裏書ヲ以テ讓渡若クハ質入スルヲ得ヘキモノタリ面シテ既ニ之ヲ發行スル以上ハ其所持者ニ對シテ獨立シテ責務ヲ盡クサ、ルヘカラサルハ又當然ノ結果也故ニ設令債權者善四郎カ文治ニ對シテ自ラ出訴スルモ決シテ無原因ノ請求ト言フヘカラス曷ソ刑法上罪ノ問フヘキアテランヤ然ラハ善四郎ヨリ之ヲ五十島市左衛門外二名ニ賣渡シタルコト由シ假裝ナリトスルモ犯罪行為ニアラサルヤ明カ也原判決書ヲ査閱スルニ被告善四郎ハ（中略）明治三十年五月ヨリ九月迄ノ間ニ於テ三回ニ右文治ヨリ借受ケナカラ之ヲ以テ文治ヨリ米又ハ金員ヲ騙取センコトヲ被告市左衛門甚助平右衛門ト共謀シ云々トアリ然レトモ該倉荷證書ノ債權者ハ善四郎ナレハ其債權者カ他ト謀リテ請求シタリトスルモ決シテ詐欺ニアラス只倉荷證書表面ノ趣旨ヲ實行シタルニ過キサルナリ之ニ付テ原院ハ「騙取」ナル法律語ヲ下シテ其説明ヲ爲シタルモ所謂「騙取」ニ相當スル丈ケノ事實理由ヲ表示セサルハ則事實理由不備ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ原判文ヲ査スルニ被告善四郎ハ

富山米穀株式肥料取引所へ證據金ニ差入ル、爲メ期限ヲ定メ高井文治ヨリ同人ノ發行ニ係ル倉荷證書ヲ借受ケナカラ被告市左衛門等ト共謀シ其返濟ノ義務ヲ免カレ却テ米又ハ金員ヲ騙取センコトヲ企テ之ヲ實行シタルノ事實ヲ認メ被告等ヲ詐欺取財犯者トシテ處罰シタルモノナレハ原判決ハ所論ノ如ク騙取ニ相當スル事實理由ヲ表示セサル理由不備ノ判決ト云フヲ得ス』其第二點ハ原判決ハ告發第一號證ヲ引用シテ判決ノ資料ニ供セリ其成立ハ被告等ノ齊シク論争シタル所ニシテ其名下ノ印影モ亦認メサル所ナリ然ルニ原院ハ特ニ平左衛門ノ印影ニ付テハ倉荷證書二十七枚ノ裏面ニ在ル印影ヲ對照シ以テ眞實トセラレタルモ其倉荷證書二十七枚平左衛門ノ印影ハ曾テ押捺シタルコトナキ旨ヲ主張シ且其證據調ナモ申請セシニ冷然之ヲ排斥シ以テ對照物トセラレタルハ證據ニ關スル法則ニ違反シタルモノナリト云フニ在リ○然レトモ原公判始末書中平左衛門カ之ヲ否認セシコトノ見ルヘキモノナク而シテ證據調ノ申請ニ對スル許否ハ原院ノ職權ニ存スルモノナレハ本論旨ハ相立タス  
被告甚助平左衛門上告趣意ハ本件被告カ所謂詐欺ノ手段ニ供シタリトノ倉荷證書（米券）ハ明治三十一年四月三十日證券ノ所持人タリシ相被告飯田善四郎ヨリ買受ケタルモノヨシテ而カモ其手續上間然ナル所ナシ抑モ倉荷證書ハ輾轉流通テ目的トスル一種ノ信用證券ニシテ證券發行者ハ發行ト稱スル特定行為ニ依リ直チニ義務ヲ負擔シ一タヒ他人ノ手ニ移シタルトキハ交付ノ原因如何ヲ問ハス完全ナル義務ヲ生ス極言スレハ發行者ノ意思ニ反シテ授受セラレタル場合ト雖モ發行者ニ於テ責任ヲ免カル、



事ヲ得ス蓋シ證券記載ノ事項ハ轉得者利益ノ爲メニ絶體的ノ決定力ヲ與ヘ猥リニ之レカ反證ヲ許サ、ルノミナラス尙モ格段ナル證據ノ存セサル以上ハ證券表示ノ事項ハ勿論其裏書ト雖モ適法ニ成立シタルモノト爲サ、ルヘカラス原院ハ不要目的性質ヲ有スル本件ノ倉荷證書ニ對シ漫然裏書讓渡ノ假裝ナル事ヲ認定シ去リ別ニ理由ヲ明示セサルハ倉荷證書ニ對スル法律上ノ性質ヲ誤リ且ツ理由ヲ付セサル不法ノ判決ニシテ結局破毀ヲ免カレサルモノナリト云フニ在リ○然レトモ本論旨ハ要スルニ原院ハ本件ノ倉荷證書ニ對シ漫然裏書讓渡ノ假裝ナルコトヲ認定シ去リ別ニ理由ヲ明示セスシテ被告等ヲ有罪トシテ處斷セラレシハ不法ナリト云フニ歸着シ相被告善四郎外一名ノ上告趣旨ト同一ナレハ同說明ニ依リ了解スルヲ得ヘシ

被告飯田善四郎ノ辯護人佐藤義彦辯明書ノ第一ハ原院ハ被告善四郎カ市左衛門等へ倉荷證書ヲ賣渡シタルモノ、如ク裝ヒタルヲ欺罔ナリト認メラレタルモノナランカ然レトモ毫モ人ヲ欺罔シタルニアラス唯我名義ノ倉荷證書ヲ他人ノ名義トナシタルノミ文治ヲシテ錯誤ニ陷ラシメタルコトナシ又裁判所へ支拂命令ノ申請ヲナシタルヲ以テ欺罔ナリト判定セラレタルナランカ然レトモ被害者ハ此支拂命令ニ對シ異議ヲ申立タルモノナレハ此時未タ錯誤ニ陷ラサルナリ畢竟スルニ文治カ財物ヲ交付セシハ和解ニシテ破産ヲ免カレンカ爲メニシテ被告ノ欺罔ニ關セサルモノナリ要スルニ原判決ハ欺罔ノ欺罔タル點ヲ明ニセサル取瑾アルモノナリト云フニ在リ其第二ハ原判決ノ認メタル事實ニ依レハ文治ハ和解

シ破産ヲ免レンカ爲メ善四郎ニ和解ヲ申込ミタルヨリ云々ト説明シテ騙取ノ事實ヲ示サレタルモノ之レ恐喝ノ事實ニシテ欺罔ニアラス然レトモ此點ハ暫ク措キ免モ角人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルモノトシ法律ヲ適用シタルハ事實ト法律ト其理由ノ相齟齬スルモノナリト云フニ在リ○然レトモ本件ノ事實ハ原判決ニ示ス如ク被告善四郎ハ市左衛門等ト共謀シ文治ヨリ借用シタル倉荷證書ヲ市左衛門等へ讓渡シタル體ニ裝ヒ其返濟ノ義務ヲ免レ却テ米又ハ金員ヲ騙取センコトヲ企テ其手段トシテ玄米請求ノ訴ヲ起シ續テ破産ノ申請ヲ爲シ遂ニ文治ヲシテ破産決定ヲ受クルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキカ寧ロ和解シテ之ヲ免ル、コ若カスト誤信セシメ金員手形等ヲ被告等へ交付セシムルニ至リタルモノナレハ畢竟スルニ文治ハ被告等ノ欺罔手段ニ基キ錯誤ニ陥リタルモノト云ハサルヲ得ス故ニ原判決ハ欺罔ニ關スル事實ヲ明示セサルモノニアラス又事實ト法律ト其理由ノ齟齬セシモノニアラサルナリ』其第三ハ被告善四郎カ自ラ騙取シタルハ倉荷證書三枚外代金三百九十圓ナルモ此外ニ付テハ善四郎ハ曾テ訴訟破産ノ手續ヲナシタルコトナシ又他ニ對シテ假裝ノ賣買ヲ爲シタルコトナシ只此三枚ヲ提供シテ文治ヨリ換償金三百九十圓ヲ領收シタルモノナリ然ルニ尙ホ之ヲ騙取トシタルハ事實理由ノ不備ナルモノナリト云フニ在レトモ○被告カ同一ニ文治ヨリ借用シタル倉荷證書中ニ付共謀者ヨリ詐欺ノ手段トシテ訴訟又ハ破産ノ手續ヲ爲シタル上ハ該三枚ノ證書ニ付良シ其手續ヲ爲サ、ルモ之レカ換償金ヲ領收シタルハ又其詐欺ノ手段ニ基キタルモノト云ハサルヲ得ス故ニ原院カ之レヲ他ノ金員ト共ニ騙取ノ所



爲ト認メタルハ相當ナリトス』其第四ハ原院カ引用シタル多賀文治郎ノ證言ハ傳聞ノ趣旨ヲ陳述シタルモノニシテ決シテ文治郎カ直接認識シタル事實ニアラス然ルニ之ヲ心證ノ資料トセシハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ刑事上ニアリテハ傳聞ノ陳述モ亦證言タルノ效力ニ影響ナキモノナレハ原院カ採テ以テ斷罪ノ資料トセシハ不法ニアラス』其第五ハ原判決ノ理由ニ「尙當公廷ニ於テ善四郎ハ文治ヨリ米券五十枚ヲ受取り前記ノ日時ニ同四十七枚ヲ他ノ被告三名ニ讓渡シタルコト云々ヲ自認セリトアリ前記ノ日時トハ蓋シ五月二十三日ヲ指稱シタレモノナルヘシト雖モ善四郎ハ曾テカ、ル自認ヲナシタルコトナシ然ルニ如斯自白アルモノト認メテ被告ニ不利益ナル事實ヲ確定セラレシハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ原公判始末書ヲ查スルニ其答中右文詞ト同趣旨ノ記載アリテ原院ハ其趣旨ヲ要約シテ之レヲ判文ニ摘示シタルモノニシテ其前記ノ時トハ判文事實ノ部ニ記載ナル裏書假裝ノ日時即チ明治三十一年四月三十日ヲ指示シタルコトハ判文ヲ通讀シテ知ルヲ得ヘシ故ニ原判決ハ所論ノ如キ不法アルコトナシ』其第六ハ原判決理由ノ末段ニヨレハ被告間米券賣買ハ五月二十三日ナルコトヲ表示シ事實認定ノ部ニハ四月三十日ニ假裝ノ賣買ヲ爲シタルコトヲ認メアリ即チ犯罪ノ日時ニ前後理由ノ齟齬アリト云フニ在リ○然レトモ事實ノ認定ノ部ニアル日時ハ米券裏書ノ日付ニシテ理由末段ノ日時ハ實際米券ノ裏面ニ四月三十日ト逆記シタル日時ヲ表示シタルモノナレハ彼此理由ノ齟齬アルコトナシ』其第七ハ證據說明ノ部ニ告發第一號證中千圓ノ文字アル如ク說示セラレシモ同證ヲ閱スルニ其

文詞ナン畢竟スルニ虛無ノ事項ニ基キ判斷ヲ與ヘラレタルモノナリト云フニ在リ○然レトモ一件記錄ヲ查スルニ所論ノ如ク告發第一號證中果シテ其文詞ナクシテ原判決ハ虛無ノ事項ヲ指示シタルモノト見ルヘキモノナケレハ本論旨ハ相立タス』其第八ハ告發第一號證中平左衛門ノ名下ノ印影ハ同人ノ認ムル前掲二十七枚ノ米券裏面ニアル同人ノ印影ト全ク同一ナリトセラレタルモ平左衛門ハ曾テ其印影ヲ認メタルコトナシ然ルニ之ヲ對照ノ材料トセシハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ右ハ善四郎市左衛門ノ上告趣旨第二ノ說明ニ依リ了解スヘシ

被告四名辯護人鳩山和夫沼田宇源太擴張書ノ要ハ被告等ハ金員及手形ヲ受取リタル行爲ニハ何等欺罔ノ處置ナク被告間ニ於ケル倉荷證書ノ賣買ニ虛構ノ事實アリトスルモノハ金員及ヒ手形ヲ受取リタル直接ノ原因カラサルノミナラス債務者タル高井文治ノ認諾ニヨリ消滅シタルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在リ○然レトモ本件事實ハ被告等カ共謀シ欺罔ノ手段トシテ出訴狀又ハ破産ノ申請ヲ爲シ其結果文治ヨリ金員及ヒ手形ヲ騙取シタルコトハ善四郎辯護人ノ辯明書第一點ニ對シ說示シタル如クナレハ同說明ニ依リ了解スヘシ

被告今枝甚助外一名辯護人高木益太郎辯明書ノ要旨第一ハ原判決ハ事實理由ノ部ニ於テ被告ハ金圓並ニ手形騙取ノ所爲ヲ認メ法律ノ適用ニ至リ證書騙取ノ點ニ付法律上ノ理由ヲ說明セサリシハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ本件事實ニ於ケル金員騙取ト約束手形騙取トハ二罪トシテ處罰スヘキモノニ







ヲ聽クハ不法ニ非ズ從テ其供述ヲ錄取シタル調書ハ證據力ヲ有ス

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

公訴私訴上告人 早川龜市 辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 福岡慶介

右龜市ニ對スル森林竊盜竝ニ之ニ附帶セル私訴事件ニ付明治三十三年九月二十八日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ一ハ原判決ニハ盜伐トノミ記載セシテ其已遂ナリヤ未遂ナルヤ判明セサルハ理由不備ノ不法アリト云フニ在レトモ○原判決ニハ樵立木拾參本ヲ盜伐シタリト明記シアレハ其已遂ノ事實ヲ認メタルコト明白ナリ』其二ハ原判決ニハ早川清次郎ノ豫審調書ヲ引用シアレトモ記錄中右ノ調書ナシ即チ原判決ハ存在セサル調書ヲ證據トセシ不法アリト云フニ在レトモ○原判決ニハ早川清次郎ノ調書ハ引用シアルコトナシ』第三ハ第一審判決ニ森林法云云裁判費用ハ同第四十五條ニ依リ云云トアルニ原院ハ此點ヲ取消ノ原由トナササリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ於テ同第四十五條トアルハ刑法第四十五條ノ誤記ナルコトヲ認メタル以上ハ第二審ニ於テ之ヲ取消サ、ルモ不法ニアラズ』其第四ハ御料局名古屋支廳中津川出張所長御料局技手ハ訴訟ヲ爲スノ能力ナシ然ルニ同人ニ

對シ勝訴ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○御料局支廳中津川出張所長ハ御料局ノ代表者トシテ訴訟能力アルコト勿論ナレハ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ

辯護人高木益太郎辯明ノ趣旨ハ豫審ニ於ケル鑑定人ノ鑑定ハ必ス書類ニ依リ之ヲ提出スヘキモノニシテ口頭供述ヲ許スモノニアラス故ニ鑑定人前川政次郎ノ口頭供述ハ不適法ノモノナルニ第一審判決カ之ヲ罪證トナシタルハ不法ニシテ如此不法ノ判決ヲ認可シタル原裁判ハ違法ナリト云フニ在レトモ○本件ニ於テハ鑑定人ニ於テ既ニ鑑定書ヲ作リタル後之ヲ補充スル爲メ其供述ヲ聽キタルモノナレハ之ヲ不法ナリト云フヘカラス故ニ其供述ヲ錄取シタル調書ヲ斷罪ノ證據ニ援用スルモ亦之ヲ不法ト云フヘカラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

本件公訴私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴費用ハ被告ノ負擔トス

明治三十三年十二月二十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス



○移民保護法違反ノ件

明治三十三年の第一二二號  
明治三十三年十二月二十一日決定

○決定要旨

刑事訴訟法第二百七十六條ニ所謂期間ニハ上告趣意書提出ノ期間  
ヲ包含ス

(参照) 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル上告ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定  
ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得(刑事訴訟法第  
二百七十六條第

原 審 長崎控訴院

被告人 下阪豊吉

外一名

右移民保護法違反被告事件ニ付明治三十三年十一月二十八日長崎控訴院カ爲シタル上告棄却ノ決定ニ  
對シ被告等ヨリ抗告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百九十七條ノ式ヲ履行シ決定スルコト左ノ如シ  
抗告ノ要旨ハ刑事訴訟法第二百七十六條ニ期間ヲ經過シタル上告トアル其期間トハ上告申立期間ノミ  
ノ謂ニシテ其趣意書提出ノ期間ヲモ包含セシメタルモノニアラス故ニ趣意書提出ノ期間ヲ經過シタル  
ト否トハ抗告裁判所ノ調査事項ニ屬スヘキモノナルニ原院ニ於テ該期間ヲ經過シタリトノ理由ヲ以テ  
被告等ノ上告ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○上告ハ期間内其趣意書ヲ提出スルニ非サレ  
ハ成立セス從テ刑事訴訟法第二百七十六條ニ所謂期間ニハ上告趣意書提出ノ期間ヲモ包含スルコト勿

論ナルヲ以テ抗告論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百條後段ニ依リ本件抗告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十二月二十一日大審院第一刑事部ニ於テ

○詐欺取財竝附帶私訴ノ件

明治三十三年の第九二二號  
明治三十三年十二月二十四日宣告

○判決要旨

賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナ  
シ民法上效力ヲ生スルモノニ非ス

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 小林兼次郎

私訴被上告人 高橋熊吉

右兼次郎外二名ニ對スル詐欺取財被告事件及之ニ附帶スル私訴ニ付明治三十三年七月三日東京控訴院

詐欺取財ノ手段タル賣買



ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兼次郎ヨリ上告ヲ爲シタリ依リテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

公訴判決ニ對スル上告趣意ノ要旨ハ原裁判カ本件ニ於テ相被告小松多助外一名ト共ニ犯罪ヲ爲シタルモノト判決シタルハ全ク證據ニ據ラサル不當ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○原判決ハ其舉示シタル各證據ヲ綜合シテ犯罪事實ヲ認メタルコト判文上明瞭ナレハ證據ニ依ラスシテ之ヲ認メタルモノニアラサルヲ以テ上告ハ其理由ナシ

私訴判決ニ對スル上告趣意ノ要旨ハ被告ハ素ヨリ詐欺致シタル覺之無ニ付被害者ニ損害賠償ノ義務無之ト云フニ在レトモ○被告ハ小松多助外一名ト共謀シテ民事原告人高橋熊吉ヲ欺キ玄米ヲ騙取シタルモノナレハ被害者熊吉ニ對シ其損害ヲ賠償スル責務アルコト勿論ナルヲ以テ上告ハ其理由ナシ

辯護士擴張書第一ハ原判決説明ニヨレハ被告小林兼次郎ハ第一審ノ共同被告渡邊安左衛門外一名ト共謀シ高橋熊吉ヨリ玄米百八十俵ヲ騙取シタリト云フ事實ノ認定ヲ爲シ以テ詐欺取財罪ニ問擬セラレタリト雖モ本件事實ハ原判決認定ノ如ク米穀賣買ナル契約ニヨリ當事者ノ意思表示ヨリ成立セシ一ノ法律行為ニシテ初メ手付金トシテ金百圓ヲ交附シ次ニ五十二圓ノ内渡シヲ爲シタリト云フ事實ナレハ之ヲ以テ直チニ米穀ヲ騙取シタルモノナリト云フヲ得ス假リニ被告ニ於テ原判決認定ノ如キ事實アリトスルモ是レ米穀騙取ニアラスシテ米穀ノ對價即代金ヲ騙取シタルモノナリトスルヲ以テ相當ト爲サ

サルヲ得ス故ニ此點ニ於テ原判決ハ事實ノ認定ヲ誤リ且理由不備ノ瑕疵アル裁判ナリト思量スト云フニ在リ○然レトモ原院カ認メタル事實ハ上告人等ノ行為ハ高橋熊吉ヲ欺罔シ玄米ヲ騙取シタルモノニシテ其賣買契約ノ成立ハ之ヲ認メタルモノニアラス故ニ民法上何等ノ效力ヲ有スルモノニアラサルヤ勿論ナリトス又原院ハ手附金及ヒ内金ノ交附ヲ以テ玄米騙取ノ手段ト認メタルモノナレハ其交附ノ爲メ玄米騙取ノ事實ニ變更ヲ生スヘキモノニアラス故ニ原院カ詐欺取財罪ニ問擬シタルハ相當ニシテ上告ハ其理由ナシ

第二點ハ原院私訴判決ハ直チニ私訴原告人ノ請求ヲ認可セラレタリト雖モ假リニ本件カ詐欺ニ依リ成立セシ賣買ナリトスルモ民法上ノ保護ヲ受ク可キ一ノ法律行為タルヲ妨ケス果シテ然ラハ民法第九十六條第一項ニヨリ本契約ヲ解除シタル後ニアラサレハ本件公訴ノ原因トシ損害金ノ請求ヲ爲シ能ハサルヤ當然ナリ然ルニ私訴被告上告人ハ直チニ損害賠償トシテ本訴ノ請求ヲ提起セラレタルハ失當ノ裁判ナリト思量スト云フニ在リ○然レトモ本訴ハ詐欺取財ノ犯罪行為ノ原因トシテ玄米ノ對價ヲ請求スルモノニシテ素ヨリ契約ノ成立シタルモノニアラサルヲ以テ之ヲ取消スヘキモノナシ故ニ民事原告人カ直チニ損害賠償トシテ本訴ヲ提起シタルハ當然ニシテ從テ原院カ其請求ヲ認可シタルハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニヨリ本件公私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス



私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十三年十二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○贓物寄藏ノ件

明治三十三年第一〇〇五號  
明治三十三年十二月二十四日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法ニ從ヒ官吏公吏ノ作成スヘキ文書ニハ代署ヲ許サス

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 山下山藏

右由藏ニ對スル贓物寄藏被告事件及同公訴ニ附帶セル私訴ニ付宮城控訴院ニ於テ審理中辯護人ヨリ公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルニ對シ明治三十三年七月十七日本件公訴不受理ノ申立ハ之ヲ棄却スト言渡シタリ因リテ被告ハ其判決ヲ不法トシ本院ニ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意ハ本件公訴提起ノ書面ニ記載シアル所ノ檢事ノ氏名ハ其自署ニアラサルコト他ノ書類ニ比照シテ自カラ明瞭ナレハ該起訴ノ書面ハ不適法ノモノナルヲ以テ本件ハ起訴ナキモノト見做ササルヘカラス然ルニ原院カ該公訴ヲ以テ適法ニ提起セラレタルモノトナシ公訴不受理ノ申立ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ本件豫審請求書中檢事ノ氏名ハ同檢事自署ナリト認メタルコト後ニ説明スル如シ畢竟本論旨ハ其認定ニ付キ原院ト意見ヲ異ニスルニ基クモノナルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

同辯護士擴張書第一點ハ本件ノ相被告山下市助豫審請求書中檢事日向英行ノ署名ト被告由藏ニ對スル同檢事ノ署名トハ全ク其筆跡ヲ異ニスル事實ハ原院ノ認ムル所ナリ故ニ論理上ノ結果トシテ此二者中何レカ眞何カ否ナルヤハ未定ニ屬スヘキモノト判定スルカ否ラサレハ事實ノ認定トシテ二者中何レヲ眞トシ何レヲ否トスルカヲ判定スルノ外ナキナリ然ルニ原院ハ單ニ其筆跡ヲ異ニスル一事ヲ以テ被告由藏ニ對スル豫審請求書ノ同檢事ノ氏名ハ其自署ニアラスト認ムルニ由ナシト云ヒ又市助ノ豫審請求書ノ同檢事ノ氏名ヲ自署ナリトスルニモ由ナシト云ヒ則何レカ眞何レカ否ナルヤハ未定ナリトノ理由ヲ以テ被告由藏ニ屬スル分ヲ適法ナリトセラレシハ普通ノ論理法ヲ誤リ且ツ被告由藏ニ對スル分ヲ眞正ナリト判定スルノ理由ヲ示ササルノ不法アリ否ラスンハ公訴不受理ノ訴ハ裁判所ノ職權ニ屬スヘキ問題ナルニ自カラ未定ノ事實ナルコトヲ認メ乍ラ事實ノ已ニ一定セルト同様ナル判定ヲ下シタルハ理



由齟齬ノ不法アリト云フニ在レトモ○原判決ハ由藏ニ對スル豫審請求書中檢事日向英行ノ氏名ハ同檢事ノ自署ニ係ルモノト認メタルコトハ判文前段ニ於テ明示スル所ナリ而シテ論旨ニ摘載セル「單ニ其筆跡ヲ異ニスルノ一事ヲ以テ」云々ト説明シタルハ畢竟辯護人カ陳辯シタル由藏市助兩名ニ對スル各通ノ豫審請求書ニ記載セル檢事氏名ノ筆跡ニ異同アルヲ以テ右由藏ニ對スル分ハ檢事ノ自署ニアラストノ論旨ヲ排斥センカ爲メ二者ノ筆跡異ナレハトテ直ニ市助ニ對スル分ヲ自署ナリトスルニ由ナケレハ此一事ヲ以テ由藏ニ對スル分ヲ果シテ自署ニアラスト認ム可カラサル旨ヲ判示シタルモノニシテ此説明ハ道理ニ適シタルモノナリ蓋シ二者ノ筆跡異同アルノミヲ以テ直ニ市助ニ對スル分ハ自署ニシテ由藏ニ對スル分ハ自署ニアラスト速了スルヲ得サルハ論ヲ待タサレハナリ右説明ノ如クナルヲ以テ原判決ハ上告論旨ノ如ク由藏ニ對スル豫審請求書檢事氏名ノ記載ハ自署ナルヤ否ヤ未定ナリトナシタルコトナク又自署ナリトノ理由ヲ欠キタルモノニアラストス

第二點ハ右二者ノ署名カ其筆跡ヲ異ニスルハ原判決ノ認ムル所ナリ然ルニ原院ガ二者中ノ一ナル被告由藏ニ對スル豫審請求書ノ檢事ノ署名ヲ採リテ之ヲ其自署ト認定セラレタル理由ハ單ニ右請求書ニ代署ノ附記ナキコト即或ル事實ノ存在セサルニ在リトセリ然ルニ官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ自署ニ代ユルニ代筆ノ附記ヲ許ササルハ刑事訴訟法第二十條及第二十一條ノ二ノ兩條ヲ比較シテ明白ナルモノナルニ本來法律ノ許ササル附記ナキノ故ヲ以テ官吏ノ自署ニアラスト判定セラレタルハ理由ノ本末ヲ

誤リタル齟齬アルヲ免レス即被告ハ右氏名ハ官吏ノ自署ニアラス官吏ハ代署ヲ許ササルヲ以テ之ヲ無効トスル主張ニ對シ原院ハ代書即チ官吏ニ付テハ在リ得ヘカラサル事實ノアラストノ理由ヲ以テ之ヲ自署ナリト判定シタルノ不法アリト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○右刑事訴訟法ニ從ヒ官吏ノ作ルヘキ書類ハ自署ニ代ユルニ代書ノ附記ヲ以テスルヲ許ササルハ上告論旨ノ如クナルヲ以テ法律上ノ正當ノ行爲トシテ右代書附記ノ有ルヘカラサルハ勿論ナリト雖モ事實上ニ於テハ決シテ有リ得ヘカラサル事ニアラサルコト又論ヲ俟タス故ニ原判決(前略)ニ檢事日向英行ト記シ職印押捺シアリテ代署ノ附記ナキカ故ニ固ヨリ其自署ト認メ得可キ云々ト説明シタルハ法律上代署シ得可キモノト爲シタルニアラスシテ其意事實上ニ於テ其附記アルニ於テハ之ヲ自署ナリト認ム可カラサルモ現ニ其事ナキニ於テハ他ニ反對ノ事實ナキ限り之ヲ自署ナリト認ム可キモノト爲シタルモノナルコト判文後段ノ理由ニ參照シテ其趣旨自カラ明瞭ナルヲ以テ原判決ハ論旨ノ如ク有リ得可カラサル事實ノアラストノ理由ヲ以テ右氏名ノ記載ヲ自署ナリト判定シタル不法ナキモノトス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十三年十二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス



○放火未遂等ノ件

明治三十三年十一月二十四日宣告

○判決要旨

共犯者ノ一名ト身分上ノ關係ヲ調査セサル通事ノ訊問手續ハ不法ナリ

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 盧籍 外二名

右三名ニ對スル放火未遂何乙酉ニ對スル竊盜被告事件ニ付明治三十三年十月二十七日東京控訴院ニ於テ本件控訴ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告及辯護人ヨリ上告ヲ爲シタリ因リテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

辯護士追加辯明書ハ通譯人モ亦證人ト同シク其事件ノ被告全體ト刑事訴訟法第二百二十三條ノ身分關係ナク且共同被告ノ關係ニ對シ正實ニ通譯スル旨ノ宣誓ヲ爲ササルヘカラス然ルニ本件ノ通事林北泉ハ豫審廷ニ於テ何乙酉揚華耀盧籍洋ノ竊盜及放火未遂事件ニ付宣誓シタルニ止マリ共同被告ノ一人盧籍強トノ間ニ身分上ノ關係ナキコトヲ陳述シタルコトナキノミナラス同人ニ對スル關係ニ付宣誓ヲ爲シ

タル事跡ナシ故ニ林北泉ノ通譯ニ係ル揚華耀ノ豫審調書ハ有效ノモノニ非ス從テ原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ審按スルニ刑事訴訟法第二百二十三條ニハ被告人ノ親族及ヒ後見人等ハ證人トナルコトヲ許ササル旨ヲ定メ同第二百一十一條ニハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ同第二百二十三條ニ記載シタルモノナリヤ否ヤヲ問フ可キ旨ヲ定メタリ而シテ右二條ノ規定ハ通事ニ付テハ適用スヘキモノナルハ第一百一條及第二百二十六條ノ明示スル所ナリ故ニ通事ヲシテ宣誓セシムルニ付テハ先以テ通事ト被告人トノ間ニ親族等ノ關係ナキヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス且此被告人トハ同一事件ニ於ケル凡テノ被告人ヲ包含スヘキモノナルハ法文上疑ヲ容リヘキナキノミナラス數名ノ被告人アル事件ニ付キ一被告人ト證人等ト親族等ノ關係アルニ於テハ其證人等ヲ除斥スヘキ理由アルコトハ一名ノ被告人ナル事件ニ於ケル場合ニ異ナルコトナシ然ルニ本件通事林北泉ノ訊問調書ヲ閱スルニ單ニ國語ニ通セサル揚華耀盧籍洋何乙酉ト身分上ノ關係ヲ調査シタルニ止マリ共同被告人タル盧籍強ト其關係如何ヲ調査セシメ直チニ揚華耀等ノ通事ヲ爲サシメタル事跡アレハ其手續ハ不法ナルヲ以テ之ニ因リテ作成シタル揚華耀等ノ豫審調書ハ無効ノモノナルニ原院カ採テ證據ト爲シタルハ違法ニシテ其判決ハ破毀ヲ免レス已ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル上ハ他ノ論旨ニ付テ一々說明ヲ要セズ

右ノ理由ニヨリ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス



明治三十三年十二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十三年十一月二十四日第一四九一號  
明治三十三年十二月二十四日宣告

○判決要旨

稅務署長ハ收入官吏ニシテ現金ヲ取扱フ場合ニ於テハ金庫出納役

トナルモノトス

第一審 札幌地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 山子義令

右義令ニ對スル監守盜被告事件ニ付明治三十三年十一月六日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告義令ヲ輕懲役六年ニ處ス押收ノ文書ハ各差出人ニ還付ス公訴費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因リテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原院ハ被告ノ所爲ヲ認ムルニ官吏タルノ資格ヲ以テ其監守スル所ノ金錢ヲ竊取シタルモノトシ之ニ監守盜ノ法條ヲ適用シテ處斷シタルモ第一審以來申立ツル如ク官吏タル資格ヲ以テ爲シタルニアラス又其金錢ヲ竊取シタルニアラスニ右ノ法條ヲ適用シタルハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○被告カ職務管掌中ノ金員ヲ竊取シタルノ事實ハ原判決ニ明示スル所ナレハ本論旨ハ畢竟其認定ノ當否ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

同辯護士辯明書第一點ハ本件被告ニ對スル檢事福留鐵藏ノ起訴狀ヲ見ルニ「被告義令ハ明治三十一年三月中空知稅務署長奉職中須崎忠次郎外數名ヨリ徵收シタル戸數割稅金ヲ竊取ス」ノ所爲ヲ以テ監守盜罪ナリトシテ豫審ヲ請求シタルモノナリ然ルニ原院判決ハ右戸數割稅金二百三十七圓二十五錢以外ニ金五十錢雜種稅及辨償金四十七圓七錢ヲモ費消シタルモノト認定シ併テ監守盜罪ニ問擬シタルハ即チ未ダ曾テ請求ヲ受ケサル事實ニ付漫リコ判決ヲ下シタルノ違法アルモノト思料スト云フニ在レトモ○本案豫審請求ハ監守盜被告事件ニシテ而シテ右雜種稅及辨償金ニ關スル行爲ハ戸數割稅金ニ關スル行爲ト牽聯シテ一ノ監守盜罪ヲ爲シ即チ一罪中ノ事實ナレハ共ニ公訴ニ係ハリタルモノナルコト論チ俟タサルナリ尤モ同豫審請求書中追録ト題スル部ニ單ニ戸數割稅金ノミヲ記シ雜種稅等ノ記載ナキモ右ハ事實ノ大要ヲ附記シタルニ止マルモノニシテ起訴ノ範圍ヲ制限シタルモノト認メテレサレハ之ヲ以テ原判決ハ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ下シタルモノト爲スヘカラス



第二點ハ本件ノ成立ニハ法律上監守ノ職責ヲ有シ且其金錢ヲ費消シタル事實アルヲ要ス然ルニ原判決ニハ明治三十年大藏省訓令第八十一號ヲ援用シ以テ被告ニ地方稅徵收事務ヲ管掌シ居リタルコトヲ認メラレタレトモ同訓令ハ必スシモ北海道稅務署長ハ地方稅ヲ徵收スヘシト云フノ義ニアラスシテ唯金庫ノ出納役ニ對シ「北海道地方稅ハ國稅徵收ノ規定ニ依リ取扱フヘキ義ト心得ヘシト訓示シタルモノニシテ稅務署長ト金庫出納役トハ元各其職責ヲ同一視スルコト能ハス故ニ同訓令ノミヲ以テハ未ダ被告ニ於テ法律上地方稅監守ノ職責アルコトヲ明カニスルニ足ラス之即裁判ニ理由ヲ附セサルノ違法アリト思料スト云フニ在レトモ○稅務署長ハ當然收入官吏タルモノニシテ其現金ヲ取扱フ場合ニ於テハ則チ金庫出納役トナルモノナルヲ以テ原院ニ於テ該訓令ヲ引用シテ本件ハ被告ノ職務内ノ金員ニ係ルモノナルヲ明示シタル上ハ判決ノ理由ニ欠クル所ナキヲ以テ上告論旨ハ不成立

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○富籤興行牙保ノ件

明治三十三年十一月二十五日號  
明治三十三年十二月二十四日宣告

○判決要旨

賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル所爲ハ其行爲カ一回タルト常行タルトニ因リ差異ヲ生スヘキモノニ非ス

第一審 橫濱地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 李 甲 元

右ニ對スル富籤興行牙保被告事件ニ付明治三十三年十一月二十二日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴及檢事ノ附帶控訴ハ共ニ之ヲ棄却ス本審ノ公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依リテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ被告ノ所爲ハ法律上罪ト爲ラサルモノナルニ有罪ノ言渡シヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右ハ名ヲ擬律錯誤ニ籍リ漫リニ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス』辯護士擴張書第一ハ本件ノ事實ハ盛尹芳ナルモノカ白鴿票ト稱スル一種ノ賭事ヲ同人ノ居宅ニ於テ明治三十三年九月十日ノ夜行ヒタリト認メラレタリ然ルニ原裁判所ハ刑法第二百六十條ニ依リ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタルモノトシ被告ニ對シテハ其犯罪ヲ幫助シタリトシテ有罪ノ判決ヲ爲シ控訴ヲ棄却セラレタリ元來刑法第二百六十條ノ規定ハ常行的ニ博徒等カ集合シテ賭場ヲ開張シテ利



益ヲ圖ルヘキ事實ニ適用スヘキモノニシテ今假リニ原判決ニ認メラル、如キ事實ナリトスルモ僅カニ一回ノ賭場ニ供セラレタル事實ニ對シ適用スヘキモノニアラサルコトハ明白ナル筋合ナリ即原判決ニ於テ刑法第二百六十條ヲ適用處斷シタルハ違法ノ裁判ナリト確信スト云フニ在レトモ○刑法第二百六十條ノ規定ハ其行為カ一回タルト將テ常行タルトニヨリ區別アルモノニアラス苟モ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタルモノハ本條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス而シテ原判決ハ相被告盛尹芳ハ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル事實ヲ認メ被告李甲元ハ之ヲ幫助シタルモノト爲シ刑法第二百六十條同第百九條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナリトス○第二ハ本件ノ事實ハ其勝敗關係ヨリ見ルモ損益關係ヨリスルモノノ純然タル賭博ニシテ盛尹芳ナルモノハ其一方ノ相手方タル賭者ナルコト明カナリ然ルニ原裁判所ハ刑法第二百六十條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ハ相被告盛尹芳ハ白鴿票ト稱スル賭博ニシテ其方法ハ賭場開張者ニ於テ豫メ各別ナル文字八十個ヲ選定シ一字宛小紙片ニ記シ丸メテ鉢ニ入レ其中二十個ヲ取出シ保存シ置キ該八十個ヲ記載シタル紙片ヲ各賭者ニ配付シ各賭者ヲシテ其内五字以上三十字以下ノ文字ヲ指定シ一定ノ賭金ヲ賭場開張者ニ交附シ參集者ノ目前ニテ先キニ保存シアル二十個ノ紙片ヲ披キ之ニ記シアル文字二十個ヲ標準トナシ各賭博者ノ指定セシ文字ヲ對照シテ五字以上ノ符合者ヲ勝者トナシ四字以下及ヒ不符合者ヲ敗者トシテ其勝敗ヲ分チ總賭金百分ノ五ハ賭場開張者ノ所得トナシ其殘金ヲ勝者ニ分配スルコト、

爲シ云々トノ事實ニシテ即相被告盛尹芳ノ所爲ハ賭者ノ相手方ニアラスシテ賭場ヲ開張シテ利益ヲ圖リタルモノナレハ原院カ刑法第二百六十條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ニアラス○第三ハ原院判決ノ理由中ニハ一モ本件カ富籤興行ニアラス又賭場ニモ非ラス刑法第二百六十條ノ賭場開張利ヲ圖リタルモノナリトノ事實及法律上ノ理由ヲ附セラレタルコトナシ然ルニ本件ハ第一審以來豫審公判又第二審ニ於テモ檢事ノ公訴理由及被告ノ防禦等總テ法律及事實ノ上ニ於テ其意見ヲ異ニシ居リテ從テ其見解ノ異同ハ判決上大ニ影響ヲ及ホスヘキ筋合ナルニ何等ノ理由ヲ附セラレサルハ結局判決ニ理由不備ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ○原判決ニ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル事實ヲ認メ其理由ヲ明示シタル已上ハ富籤興行又ハ賭博ニアラストノ理由ハ之ヲ附スルノ要ナシ又罪トナルヘキ事實理由ヲ説明シタル上ハ被告ノ主張シタル意見ニ對シ一々理由ヲ附セサルモ理由不備ト云フナ得ス○第四ハ原判決ハ本件ノ證據トシテ專ニ盛尹芳ノ豫審調書及被告ノ豫審調書ニヨリ本件ノ事實ヲ認メタリト記載セラレタリ然レトモ盛尹芳ノ調書ハ調書中改廢ヲ爲セシ所アルニ係ラス挿入ニ付テハ何字ノ挿入ヲ爲シタルヤ適用ノ記載ナシ形式上違法ノ調書ナルニ之ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供シ又被告ノ調書中ニハ原判決ニ認メラレタル事實ノ記載ナキニ係ラス之ヲ以テ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ノ措置ナリト確信スト云フニ在レトモ○該豫審調書ヲ查スルニ文字ヲ挿入シタル個所ニハ惣テ認印シアリテ而シテ其字數ハ之ヲ記載スルヲ要セザルモノナルヲ以テ其調書ハ違法ニアラス故ニ原院カ之ヲ罪證



ニ供シタルハ決シテ不法ニアラス又被告ノ豫審調書ヲ查スルニ原院ノ認メタル趣旨ノ陳述アルコト明瞭ナルヲ以テ原判決ハ虛無ノ事實ヲ掲ケ罪證ニ供シタル如キ不法アルコトナシ  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十三年十二月二十四日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○官印盜用等ノ件

明治三十三年第一五七六號  
 明治三十三年十二月二十五日宣告

○判決要旨

詐欺取財罪ヲ犯シタル後其犯跡ヲ掩蔽スル爲メ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ニ對シ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

第一審 大阪地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 松井鎗太郎

辯護人 嶋志田 直

右官印盜用官文書偽造行使詐欺取財事件ニ付明治三十三年十一月十七日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル公訴ノ判決ヲ不當トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
 上告ノ趣意ハ原院ノ判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○其不法ノ點ヲ指示セサルニヨリ説明ヲ付スルニ由ナシ

辯護人嶋志田直上告趣意擴張書ノ趣旨ハ原院ハ官文書偽造行使ト詐欺取財ハ一罪ナリト判決セラレタレトモ官文書偽造行使ハ既ニ詐欺取財ヲ犯シタル後其犯跡ヲ蔽ハントスルノ行爲ナルコトハ原院ノ認メラレタル事實ニ於テ明カナリ故ニ官文書偽造行使ノ所爲ハ詐欺取財ニ基因シタルモノナルモ詐欺取財トハ別罪ナリト斷定セサルヲ得ス然ルニ原院カ之ヲ一罪トシタルハ違法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ原院ノ認メタル事實ニヨレハ本件ノ官文書偽造行使ハ既ニ詐欺取財ヲ犯シタル後其犯跡ヲ蔽ハシカ爲メノ所爲ニシテ詐欺取財ヲ爲スニ因テ官文書ヲ偽造行使シタルモノニアラサルヲ以テ實質上一罪ナリト云フヲ得ス然ルニ原院カ之ニ對シ刑法第三百九十條第二項ヲ適用處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

右ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件私訴ノ上告ハ之ヲ棄却シ私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トシ同法第二百八十七條ニ從ヒ原公訴判決擬律ノ部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左



ノ如シ

右

松井 鎗太郎

原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告カ爲替證書騙取ノ所爲ハ共ニ刑法第三百九十條第一項同第三百九十四條ニ該當シ官吏共管掌スル文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ同第二百五條第一項ニヨリ同第二百三條ノ例ニ照シ一等ヲ加フヘク官印盜用ノ所爲ハ同第九十七條第一項同第九十五條ヲ適用シ官文書ヲ偽造スルニ依リテ官印ヲ盜用シタルモノナルニ依リ同第二百六條ニ照シ重キ官文書偽造行使罪ニ從ヒ數罪俱發ニ付同第一百條ニ照シ重キ官文書偽造行使罪ニ從ヒ處斷スヘキ處所犯情狀酌量スヘキ所アルヲ以テ同第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ輕懲役六年ニ處ス

其他ハ原判決ノ通り

明治三十三年十二月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官文書偽造行使等ノ件

明治三十三年十一月二十五日第一五二四號  
明治三十三年十二月二十七日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ利益ト爲スコトヲ許サストハ第一審判決ヲ被告人ノ利益ニ變更スルコトヲ許サ、ルノ趣旨ニシテ上告裁判所ヨリ移送ヲ受ケタル控訴裁判所カ上告裁判所ノ破毀シタル第二審判決ヲ被告人ノ利益ニ變更スルヲ禁シタルモノニ非ス

(參照) 被告人、辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ利益ト爲スコトヲ許ス(刑事訴訟法第二百六十五條第一項)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 志村新太郎 辯護人 山浦橋馬

私訴被上告人 小貝庸吉 外二名

右新太郎カ官文書偽造行使官林盜伐冒認竝ニ竊盜被告事件及之ニ附帶スル私訴ニ付明治三十三年十一月十四日東京控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ原判決中控訴ニ係ル部分ハ之ヲ取消ス被告ヲ輕懲役七年ニ處ス押收物ハ各差出人ニ還付ス公訴費用中十分ノ一ハ第一審ノ相被告小關多利三郎平間又右衛門ト其他

不利益變更ノ意義



ハ右又右衛門ト各連帶負擔スヘシ林務官小貝庸吉志村新太郎間ノ私訴ニ付テハ原判決中移送ニ係ル部分ハ之ヲ取消ス控訴人新太郎ハ第一審ノ相被告平間又右衛門ト連帶シテ金四十圓四十九錢七厘ヲ被控訴人ニ賠償スヘシ被控訴人ノ第一審費用中其十分ノ九ハ第一審ノ相被告平間又右衛門ト連帶シ第二審費用ハ控訴人新太郎一人ニテ負擔スヘシ上西時之助日下倉吉志村新太郎間ノ私訴ニ付テハ原判決移送ニ係ル部分ハ之ヲ取消ス控訴人ハ第一審ノ相被告平間又右衛門ト連帶シテ金二千三百五十圓九十八錢ニ該金額ヲ受領シタル以降(私訴狀附屬損害金額調査ニ據リ)法定ノ利子年六分民法實施後ハ年五分ヲ附シテ被控訴人ニ賠償スヘシ被控訴人ノ第一審費用中十分ノ九ハ第一審相被告平間又右衛門ト連帶シ第二審費用ハ控訴人新太郎一人ニテ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對シ被告新太郎ヨリ上告ヲ爲シ本院檢察事ハ附帶上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決カ上告人ヲ官文書偽造ノ共謀者トシ輕懲役ニ處シタルハ全ク事實ヲ不當ニ認メタルモノナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

上告申立書ト題スル上告趣意擴張書ノ要旨第一ハ本件二個ノ變造圖面ハ刑法第四十三條第一號ニヨリ沒收スヘキモノナルニ原院カ之ヲ沒收セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○右ハ被告ノ不利益ニ歸スヘキ論旨ナルヲ以テ被告ノ上告トシテハ適法ノ理由トナラス

第二ハ原判決ニ事實ノ記載ナキハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レト

モ○本件罪トナルヘキ事實ハ原判文ニ逐一明示シアルヲ以テ本論旨ハ其謂ハレナシ

第三ハ原院カ公私訴訟費用ノ負擔ヲ宮城控訴院ノ言渡シタル負擔ヨリ重クシタルハ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百六十五條ニ「原判決ヲ變更シテ被告ノ不利益ト爲スコトヲ許サス」トアルハ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルコトヲ許サストハ趣意ニシテ上告裁判所ヨリ移送ヲ受ケタル控訴裁判所カ上告裁判所ノ破毀シタル第二審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルコトヲ禁止シタルモノニアラサルヲ以テ縱シ所論ノ如ク原院カ公私訴訟費用ノ負擔ヲ宮城控訴院ノ言渡シタル負擔ヨリ重クシタル事實アリトスルモ之ヲ以テ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス

第四ハ原判決ノ冒頭ニ官文書偽造行使官林盜伐冒認及ヒ竊盜事件ニ付云々ト件名ヲ掲ケナカラ原院カ官林盜伐及ヒ竊盜ノ點ニ對シ理由ヲ附セス又法律ヲ適用セサルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決冒頭ニ官林盜伐及竊盜事件ト掲ケタルハ檢事ノ起訴ニ基キ附シタル訴名ニシテ裁判所ハ其訴名ニ拘束セラルヘキモノニアラサルヲ以テ原院檢事ト其意見ヲ異ニシ之ヲ他ノ犯罪事實ナリト認メ之ニ相當ノ法條ヲ適用シタルハ違法ニアラサルヲ以テ本論旨ハ相立タス

第五ハ其意義明瞭ナラサルモ之ヲ要スルニ原院カ敬助精一郎彦右衛門淺治文九郎甚十郎繁之丞ノ供述



ヲ採リテ證據トナシタルハ違法ナリ何トナレハ右ハ總テ偽證ナルヲ以テナリ又原院カ官民林ノ境界ヲ誤認シ林務官ノ不實ノ申立ヲ採用シ裁判ヲ爲シタルハ不當ナリト云フモノ、如シ○果シテ然ラハ右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス第六ハ第一ノ趣旨ヲ敷衍シ第七ハ第三ノ趣旨ヲ敷衍シタルニ外ナラサルヲ以テ重ネテ説明ヲ爲スノ要ナシ

辯護人山浦橋馬上告趣意擴張書ハ原判決理由ノ部第一段ニ於テ(前略)當時村長タリシ高橋猛ニ引渡シ行使シタリ又(前略)之ヲ變造シ直チニ村上豊藏ノ手ヲ經テ返納シ之ヲ行使シタリトアリテ其第三段ニ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ(前略)變造繪圖而シテ福岡村役場ニ於テ行使シタル事實ハ第一審公判始末書中高橋猛ノ陳述ノ部ニ於テ當時村長ノ資格ニテ裏張ヲ爲シタル大繪圖ハ明治三十年八月下旬高子善藏ヨリ受取リタル旨ノ記載ニヨリ之ヲ認ム其明治三十年陰曆七月下旬前記豫第百拾號ノ變造繪圖ヲ大河原稅務署ニ於テ行使シタルノ事實ハ小關多利三郎ノ豫審調書中前ニ引用セシ稅務署ニ到リ繪圖ヲ繼合セ來リシ旨ノ記載村上豊藏ノ豫審調書中明治三十年八月中旬頃高子善藏小關多利三郎カ大河原稅務署ニ到リ栗原署長ニ村備深谷地押繪圖ハ汚損シタルニ付署備ノ同繪圖ヲ謄寫ノ爲メ借覽シタシトノコトヲ申出許可ニナリ自分ハ阿部厚治ニ云ヒ付同繪圖ヲ差出サセ宿直部屋ニテ謄寫セシテ中間ヨリ截斷セラレ繼合セラレタルヲ知ラス返納ヲ受ケ居リタル旨ノ記載ニヨリ之ヲ認ムトアリテ之カ行使ノ標準ヲ

唯受授シタルノ一點ニ繫ラシメタリ元來該地圖ハ官文書ナルカ故ニ若シ該地圖ニシテ元來官文書タル地圖ノ證據力ヲ有スルモノナリセハ變造シツ、アリシ當時ヨリ當然變造罪ヲ成立スヘク受授ニヨリテ是カ行使罪ヲ成立スヘキ標準ト爲スヘキモノナランヤ若又受授ノ當時ヨリ證據力ヲ有シタルモノナリトセハ之レチ自家カ買受ケタル地籍ノ證據ト爲シ若クハ爲サントシタルノ理由ヲ附シ且説明セサル可カラサルニ此等ノ理由ナキハ即裁判ニ理由ヲ附セサルノ瑕瑾アル不法ノ裁判ナリトス又該地圖ヲ變造シタルハ既ニ原判決ニ認メタル如ク全ク冒認販賣ニアリ而シテ冒認販賣ハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノナルカ故ニ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シ重キニ從テ處斷スヘク即チ刑ノ加重ニシテ獨立シタル官文書變造行使罪ニ問フヘキモノニアラスト信ス然ルニ原院カ獨立シタル官文書變造行使罪ニ問ヒタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニヨレハ本件ハ被告カ小關多利三郎等ト共謀ノ上多利三郎カ福岡村役場ヨリ同役場備付ノ同村深谷地押大繪圖ノ裏打ヲ頼マレ之ヲ預リ居ル中之ヲ變造シ助役高子善藏ノ手ヲ經テ村長高橋猛ニ引渡シ又大河原稅務署長栗原健十郎ニ對シ福岡村役場備付ノ繪圖ハ汚損シテ其用ヲ爲ササルニ付云々ト申向ケ同人ヲ欺罔シテ同署備付ノ深谷地押大繪圖ヲ借受ケ之ヲ變造シ村上豊藏ノ手ヲ經テ同署ニ返納シタリト云フニ在リテ右變造繪圖ハ其引渡シ及返納即チ公署官署ニ差出シタルコ依リ始メテ行使セラレタルモノニシテ被告共ノ手裡ニ現存スル間當然行使セラレタルモノナリト云フヲ得サルヲ以テ前段ノ論旨ハ相立タス又已ニ公署官署ニ差出シタル



上ハ官文書變造行使罪ヲ構成スルハ固ヨリ當然ノコトニシテ之ヲ買受ケタル地籍ノ證據ニ供シ又ハ供セントシタルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ナキヲ以テ原判文ニ之カ理由説明ヲ附セサルモ裁判ニ理由ヲ付セサル瑕瑾アリト言フヲ得ス又原判決法律適用ノ部ヲ閱スルニ「之ヲ法律ニ照スニ大河原稅務署備付ノ地押大繪圖變造行使ノ行爲ハ刑法第二百三條第一項福岡村役場備付ノ同繪圖變造行使ノ所爲ハ前條ノ外云々冒認販賣ノ所爲ハ刑法第三百九十三條第一項第三百九十四條ニ該當シ其二箇ノ大繪圖變造行使ハ冒認販賣ヲ爲スニ因ルヲ以テ此關係ハ刑法第三百九十條第二項ニヨリ一ノ重キ稅務署備付ノ地押大繪圖變造行使ノ罪ニ從ヒ云々」トアリテ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シ一ノ重キ稅務署備付ノ地押大繪圖變造行使罪ニ從ヒ處斷シタルモノニシテ獨立シタル官文書變造行使罪トシテ處斷シタルモノニアラサルコトハ明カナルヲ以テ後段ノ論旨ハ其謂ハレナシ

同辯護人ヨリ私訴上告趣意擴張書ヲ提出シタルトモ同辯護人ハ刑事訴訟法第二百七十九條第二項ノ規定ニ基キ重罪控訴事件ノ辯護ヲ命セラレタルモノニシテ私訴事件ノ訴訟代理ハ之ヲ命セラレタルモノニアラス又訴訟記録中上告人カ同辯護人ヲ私訴事件ノ訴訟代理人ニ選定シタル事跡ナキヲ以テ其擴張書ニ對シテハ説明ヲ與フルノ限リニ在ラス

本院檢事ノ附帶上告ノ趣旨ハ繪圖ハ刑法第二百三條第一項ニ所謂官ノ文書ノ中ニ包含セラルヘキモノニアラス故ニ本件繪圖ノ變造ヲ以テ官文書變造トナスニハ其繪圖面上ノ文字ヲ變造シタルノ事實ヲ明

示セサルヘカラス然ルニ原院カ繪圖ヲ變造行使シタル事實ノミヲ明示シ其文字ヲ變造シタル事實ヲ明示セサルハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑法第二百三條第一項ニ所謂官ノ文書トハ官ノ圖書ノ意義ナルヲ以テ原判文ニ福岡村役場備付ノ繪圖及大河原稅務署備付ノ繪圖ヲ變造行使シタル事實ヲ明示シタル以上ハ其他ニ繪圖面上ノ文字ヲ變造シタルトノ事實ヲ明示セサルモ事實ノ理由ニ於テ毫モ缺クル所ナキヲ以テ本論旨ハ相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件被告ノ上告及本院檢事ノ附帶上告ハ何レモ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人新太郎ノ負擔トス

明治三十三年十二月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス



○大審院刑事部裁判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長

部長 判事 原田 種成

部員

判事 小松 弘隆

判事 永井 岩之丞

判事 伊藤 悌治

判事 井原 師義

判事 末弘 殿石

本部ノ開廷

火曜 日

金曜 日

本部ノ所管

刑事判事氏名表

名古屋控訴院

大阪控訴院

長崎控訴院

廣島控訴院

第二刑事部

裁判長

部長 判事 長谷川 喬

部員

判事 岩田 武儀

判事 木下 哲三郎

判事 津村 董

判事 鶴 丈一郎

判事 鶴見 守義

本部ノ開廷

月曜 日



4476-44

刑事判事氏名表

木曜日

本部ノ所管

東京控訴院

函館控訴院

宮城控訴院















